

日本農学図書館協議会誌 163 号 (2011 年 9 月)

目 次

科学技術情報発信・流通総合システム (J-STAGE) の活用法

青山 幸太 1 - 4

《いまどきデータベース》

「貯穀害虫・天敵図鑑」から「食品害虫サイト」へ

曲山 幸生・七里 与子・宮ノ下 明大・今村 太郎 5 - 9

【シリーズ 図書館を支援する私の会社】

丸善は総合的なサービスで大学図書館をご支援しています

山崎 清宏 10 - 17

【農学系図書館探訪】

独立行政法人森林総合研究所図書館 18 - 19

事務局報告 20 - 29

・平成 23 年度第 2 回理事会議事録

・平成 23 年度第 8 回通常総会

・主な取組み

Bulletin of the Japan Association of Agricultural Librarians and Information Specialists

No.163

September, 2011

ISSN 1342-1905

CONTENTS

Use of J-STAGE (Japan Science and Technology Information Aggregator, Electronic)

Kota AOYAMA 1 – 4

《An Introduction to New Database》

From “Food-Insect Picture Guide” to “Food-Insect Site”

Yukio MAGARIYAMA, Kumiko SHICHIRI, Akihiro MIYANOSHITA,
and Taro IMAMURA 5 – 9

【Your company’s corporate philosophy and library】

Maruzen will provide comprehensive support for academic libraries

Kiyohiro YAMAZAKI 10 – 17

【Visit to Agricultural Library】

Forestry and Forest Products Research Institute library 18 – 19

Note from JAALD 20 – 29

科学技術情報発信・流通総合システム（J-STAGE）の活用法

Use of J-STAGE (Japan Science and Technology Information Aggregator, Electronic)

青山 幸太*

1. はじめに

独立行政法人科学技術振興機構（JST）では、①新技術の創出に関する研究、②新技術の企業化開発、③科学技術に関する研究開発に係る交流・支援、④科学技術に関する知識の普及、国民の関心・理解の増進、⑤科学技術情報の流通促進、という5つの柱のもと各種の事業を展開している。今回ご紹介の機会をいただいた科学技術情報発信・流通総合システム「J-STAGE (Japan Science and Technology Information Aggregator, Electronic)」は、上記のうち⑤の柱に沿って展開されている様々なJST運営データベース・サービス等の一翼を担うものであり、国内の学協会が発行する学術論文誌等(科学技術刊行物。人文・社会科学に関するものを含む。)を電子ジャーナルとして、インターネットにおいて発信・流通させるためのプラットフォームである。1999年に運用が開始され、12年を迎えた。この間、J-STAGEを利用して発行される電子ジャーナルの数は着実に伸び続け、2008年には500誌、2010年には600誌、さらに今年2011年に700誌を突破している。システム自体についても2004年にリニューアルが行われ（J-STAGE2）、2012年にはさらにシステムの大幅な更新が実施される（J-STAGE3）予定である（後述）。

ここでは、国内最大規模の電子ジャーナルサイトに成長したJ-STAGEならびにJ-STAGEのいわば「兄弟サイト」であるJournal@rchiveについて、その概要、機能、活用方法等を紹介させていただく。

2. J-STAGE の概要

前述したように、J-STAGE 事業は、国内の学協会向けに電子ジャーナル発行のプラットフォームを提供する

サービスである。全体の事業運営とシステムの開発運用等はJSTが、コンテンツの作成と運用は学協会（発行機関）が実施している。コンテンツの作成・登載作業は学協会の負担で行うことになるが、原則として著作権の移譲等は生じないため、各学協会においては当該の権利等をある程度主体的にコントロールしつつ、J-STAGEシステムが提供する高度な機能・サービスを容易に利用することができる。

J-STAGEには、2011年6月末現在、ジャーナル740誌、予稿集125誌、報告書10誌が掲載されている。図1は、J-STAGE利用学協会数・誌数の年度推移を示したものである。一方、現在公開されているジャーナルの言語別割合を見てみると、欧文誌が約31%、和文誌が約21%、残りの約48%が和欧混在誌となっている。本文が和文の論文の場合であっても、英文抄録が付されている論文記事が多く（2010年末現在、全記事のうち80%以上が英文抄録つき）、この場合はもちろん英語で抄録の閲覧・検索を行うことが可能である。

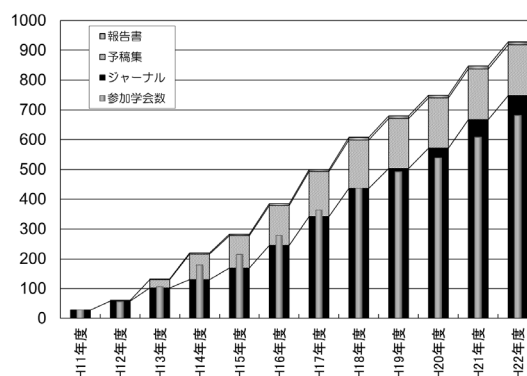


図1 J-STAGE 利用学協会誌の年度推移

* 独立行政法人 科学技術振興機構イノベーション推進本部知識基盤情報部 〒102-0081 東京都千代田区四番町5-3

Kota AOYAMA, Department of Databases for Information and Knowledge Infrastructure Innovation Headquarters, Japan Science and Technology Agency(JST), 5-3 Yonbancho, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0081



図2 J-STAGE トップ画面



図4 書誌事項表示画面

3. J-STAGE の画面構成と機能

J-STAGE のトップ画面 (図2) から、論文誌・記事を検索する方法をご紹介します。画面上におもな検索窓が2か所あるが、このうち上部のものは記事検索窓で、検索語等を入力することにより J-STAGE の全掲載記事を横断的に検索することができる。その右側には詳細検索のリンクもあるので、ここから条件をさらに詳細に絞り込むことも可能である。その下側、画面中央にあるのが誌名検索窓で、ジャーナルのタイトルや発行機関から、誌名単位での検索を行うことができる。

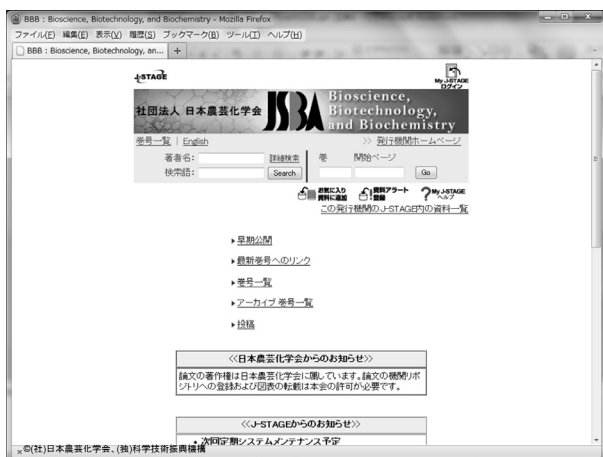


図3 日本農芸化学会の例

たとえば、誌名検索窓に「bioscience」と入力し、検索ボタンを押下すると、このキーワードを含む雑誌が検索されてくる。たとえば日本農芸化学会の「Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry」誌を選択すると、当該誌のトップページに遷移する (図3)。ページ上には最新巻号へのリンクがあり、ここをクリックすることで、現在公開されている最新号の内容を素早く確認すること

ができる。なお、各ジャーナルトップページの検索窓からは、当該ジャーナルの内容についての横断検索が可能である。号ページには各記事へのリンクが表示されているが、リンクは記事ごとに「抄録」[PDF] の2つが存在する。このうち PDF をクリックすると、PDF 形式で全文情報 (フルテキスト) を閲覧することができる。また、「抄録」をクリックすると、当該記事の書誌事項表示画面へジャンプする (図4)。書誌事項画面では、記事の表題、著者名、そして抄録 (アブストラクト) 等を確認することができる。また、この書誌事項画面からは、「引用文献」のリンクが設定されており、クリックすると当該論文記事についての引用文献情報ページへ遷移する (図5)。引用文献情報ページでは、引用文献一覧とともにリンクボタンが表示され、「JST リンクセンター」と呼ばれるシステムを介して、それぞれの引用文献情報にジャンプすることができるようになっている (この引用文献リンクは、アップロードされた書誌情報ファイル

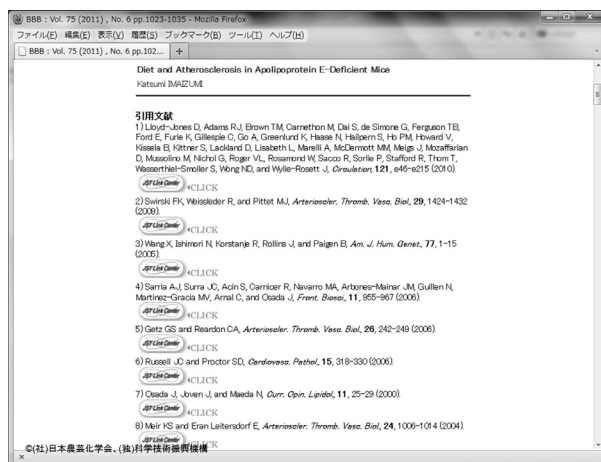


図5 引用文献情報ページ



図6 「Cited」のボタン

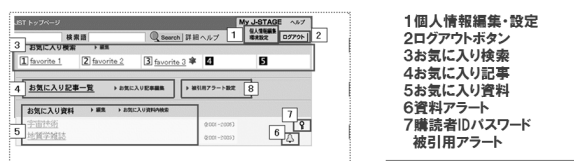


図7 マイページ機能

をシステムが解析して自動的に表示されている)。また、JST リンクセンターは被引用リンク機能も提供しており、J-STAGE に掲載された論文が他から引用されると、記事トップページに「Cited」のボタンが表示されるようになっている（図6）。

こうした文献リンクは、ジャーナルの閲覧性、プレゼンスを高めるうえで非常に重要である。JST では、順次国内・海外の学術情報提供サービスとリンク連携を進めており、引用文献リンクを拡充したり、各情報提供サービス・ポータルサイト等から J-STAGE 上の記事を検索しやすくしたりといったとりくみを継続している。通常、こうした連携を各学協会が個別に行うことには困難な面もあるが、こうした対外的な交渉や契約を JST が一括して行うことで、各ジャーナルは基本的に J-STAGE 上に記事をアップロードするだけで、各連携先とのリンク等を利用することができる。

また、J-STAGE では、掲載号・ページが決定していない論文をいち早く公開できる早期公開機能、音声や動画もアップロードできる電子付録機能、Graphical Abstract 表示機能など、電子ジャーナルならではの機能が利用でき、閲覧者によるより多面的で迅速な学術情報へのアクセスを可能としている。

さらに、J-STAGE をより便利に利用する上で活用できるのが、「My J-STAGE」と呼ばれるマイページ機能

である。J-STAGE のトップページからメールアドレスとパスワードを登録すれば、よく参照する資料や検索式などを登録したり、登録した資料において新たな号が公開された際にアラートメールを受け取ったりすることができる（図7）（なお My J-STAGE 機能は今後システムの更改に伴ってサービスの刷新が予定されており、現行サービス利用者の皆様には再登録などのご協力をお願いする予定である）。

4. 過去分ジャーナルのアーカイブサイト 「Journal@rchive」

ここまで紹介してきた J-STAGE は、最新の研究成果を発信・流通させるためのプラットフォームである。J-STAGE を利用することで、各学協会はいわゆるカレント分については、継続的に電子ジャーナルを発行してゆくことができる。

ただもちろん、学術論文誌の過去分、過去に刊行された論文記事の中にも、きわめて貴重な研究成果が収録されていることが多い。そこで JST では、国内学術論文誌の国際発信力強化とあわせ、わが国の知的財産を保存することを目的として、学術的価値の高い論文誌を創刊号まで遡って電子化・公開する「電子アーカイブ事業」を平成 21 年度まで実施した。日本学術会議・日本学術振興会・国立国会図書館・国立情報学研究所などの有識者で構成される外部選定委員会が平成 17 年度からの 5 年間で 644 誌を選定し、「Journal@rchive」サイト（図8）において順次電子化・公開している。J-STAGE ではデータ作成は発行元の各学協会において行っているが、Journal@rchive ではその事業趣旨に照らし、JST が学協

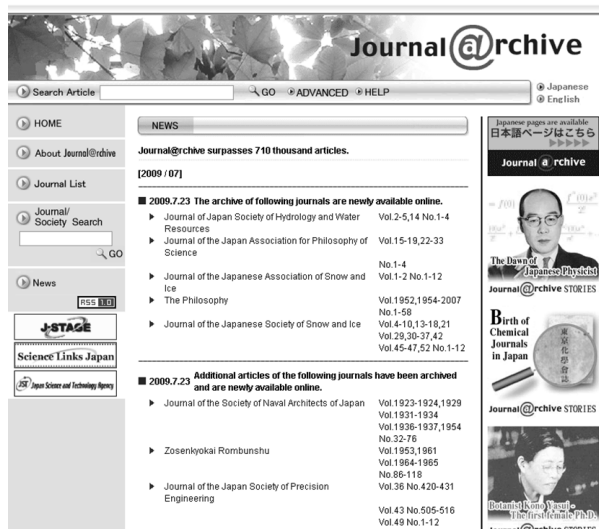


図8 「Journal@rchive」サイト

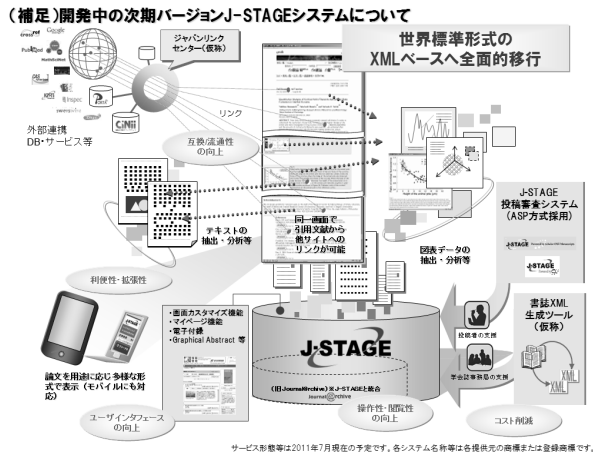


図9 開発中の次期バージョン J-STAGE システムについて

会から冊子等を受領してスキャンし、データを作成する。2010年6月末現在、約140万記事が公開されており、件数は拡大中である。全てのデータについて学会名、雑誌名、書誌のみならず全文での検索も可能で、J-STAGEとあわせて大規模な電子ジャーナルサービスを構成している。

Journal@rchive もサイトとしては独立しているのですが、トップページから雑誌タイトルや記事を検索することが可能であるが、先ほどの「Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry」誌などのように J-STAGE でも掲載されている場合は、J-STAGE のジャーナルトップにもアーカイブへのリンクが表示される。これにより、創刊号から最新号まで、インターネット上で各論文の全文を閲覧す

ることができる。なお選定 644 誌のうち、農学系は 84 誌であり、Journal@rchive サイトの選定誌一覧ページから確認することができる。

5. 今後のシステム・サービス拡張

最後に、現在開発中の J-STAGE 新システム (J-STAGE3) についてご紹介させていただきたい。2012 年に本格運用を開始する予定の新システムでは、データフォーマットを原則として XML 形式で統一するほか、現在は画一的に提供されている各ジャーナルのインタフェースなどもカスタマイズ可能とするなど、大幅なリニューアルが行われる (図 9)。あわせて今後、JST リンクセンターの機能も大幅に拡張され、J-STAGE のみならず国内のさまざまな学術情報機関等が共同で利用できるシステム「ジャパンリンクセンター (JaLC)」(仮称)として運用が開始される予定である。

JST では、今後も農学図書館関係者の皆様はじめ関係各方面の皆様と協働しつつ、より利用しやすいサービスの拡充に向け努力してゆきたいと考えている。引き続き J-STAGE のご活用とご支援、ご指導をお願いする次第である。

(本稿は、平成 23 年 7 月 9 日に東京農業大学図書館で開催された「第 119 回農学図書館情報セミナー 科学技術情報発信・流通総合システム (J-STAGE) の活用法」で講演した内容をまとめたものです)

「貯穀害虫・天敵図鑑」から「食品害虫サイト」へ

From “Food-Insect Picture Guide” to “Food-Insect Site”

曲山 幸生・七里 与子・宮ノ下 明大・今村 太郎*

1. はじめに

食品総合研究所の歴史は、1934年農林省米穀局米穀利用研究所から始まり、何回かの組織改編を経て、2006年より現在の独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所に至っています。その間、食糧・食品に損害を与える害虫の研究は、食品総合研究所の研究の柱の一つとして、絶えることなく続いてきました。食品総合研究所は研究者ではない人に向けて研究成果を紹介、解説するために1958年から「食糧」を刊行しています。この食糧に食品害虫に関する研究が数多く掲載されている^{1)~6)}ことから、社会の要請で食品害虫研究が続けられてきたことが窺えます。

しかし、食糧の1959年の記事¹⁾では食糧確保の観点が重視されていたのに対して、それから25年経った1984年の記事³⁾では食品の品質に重点が移ってきたこ

とが読み取れます。研究対象は同じでも、社会の移り変わりとともに求められることは次第に変化しています。品質の中でも特に衛生の問題はますます重要度を増しています。現在では、お菓子里に昆虫が混入した事件で見られたように、その対処を誤ると、会社の存続を左右するような事態に発展しかねません。

このような時代背景の中「貯穀害虫・天敵図鑑」を公開し、その後さらに社会の要請に合わせたサービスを提供するために、これを拡張した「食品害虫サイト」を開設しました。ここでは、データベースである「貯穀害虫・天敵図鑑」とそれを拡張したウェブサイト「食品害虫サイト」が何を目指し、どのようなコンテンツを提供しているのかを紹介します。

2. 貯穀害虫・天敵図鑑

食品害虫について詳しい知識を持っていない、消費者をはじめとする専門家でない人たちにも正しい知識で害虫混入に対処してもらいたいと考え、食品総合研究所は2000年4月に貯穀害虫・天敵図鑑（図1）を公開しました。食品害虫サイト開設直前に掲載していた昆虫は、甲虫31種、蛾9種、天敵8種の合計48種でしたが、その後も少しずつ増えており、2011年6月現在で55種になっています（表1）。

貯穀害虫・天敵図鑑では、虫の名前、虫の形態（甲虫／蛾／天敵）、加害対象（穀類／豆類／乾燥食品／その他）で検索できるようにしています（図1）。虫の説明ページでは、虫の写真に加えて、和名、英名、学名、分布、形態、加害する食品、加害形態、防除方法、その他の項目に分けて説明があります（図2）。紙媒体の図鑑を簡



図1 旧「貯穀害虫・天敵図鑑」のトップページ

* 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所 〒305-8642 茨城県つくば市観音台2-1-12

Yukio MAGARIYAMA, Kumiko SHICHIRI, Akihiro MIYANOSHITA, and Taro IMAMURA

National Agriculture and Food Research Organization, National Food Research Institute, 2-1-12, Kannondai, Tsukuba, Ibaraki 305-8642

表 1 貯穀害虫・天敵図鑑に掲載された害虫と天敵

分類	種
甲虫	コメノゴミムシダマシ、クロゴミムシダマシ、フタオビツヤゴミムシダマシ、ガイマイゴミムシダマシ、ヒメゴミムシダマシ、カクムネヒラタムシ、ヒラタコクヌストモドキ、コクヌストモドキ、ジンサンシバンムシ、アズキゾウムシ、オビヒメカツオブシムシ、コクゾウムシ、コクゾウムシ、コナナガシנקイムシ、コメノケシキスイ、ニセマルヒョウホンムシ、ナガヒョウホンムシ、ノコギリヒラタムシ、オオメノコギリヒラタムシ、タバコシバンムシ、ヒメカツオブシムシ、ヒメマルカツオブシムシ、ワタミヒゲナガゾウムシ、チビタケナガシנקイムシ、コクヌスト、カシミールコクヌストモドキ、インゲンマメゾウムシ、アカイロマメゾウムシ、ホソチビコクヌスト、ガイマイデオキスイ、ハラジロカツオブシムシ ヒラタチャタテ、グラナリアコクゾウムシ、ヨツモンマメゾウムシ、チャイロコメノゴミムシダマシ (2007 年追加) ヒメアカカツオブシムシ (2008 年追加)
蛾	チャマダラメイガ、ガイマイツヅリガ、ノシメダラメイガ、スジコナマダラメイガ、スジマダラメイガ、バクガ、イッテンコクガ、コメノシマメイガ、カシノシマメイガ
天敵	ケブカサシガメ、コメグラサシガメ、ミナミアシブトハナカメムシ、ホウネンカメムシ、コクゾウコバチ、ゾウムシコガネコバチ、シバンムシアリガタバチ シマメイガコマユバチ、コクガヤドリチビアメバチ (2010 年追加)



図 2 旧「貯穀害虫・天敵図鑑」の解説ページ例



図 3 食品害虫サイト（第一版）トップページ

略化してウェブに乗せたような簡単な構成ですが、誰もが無料でいつでもどこでも利用できる図鑑として、公開以来食品総合研究所のウェブサイトの中でも根強い人気があります。

3. 食品害虫サイト開設

家庭で貯蔵している食品に昆虫が混入するという問題は、かつてに比べると桁違いに少なくなっていますが、根絶するまでには至っていません。根絶するためには膨大なコストが必要ですが、昆虫混入によって発生する健康被害のリスクは病原微生物や重金属などの重要問題に比べて小さく、どうしても優先度は低くなってしまっているのはやむをえません。しかし現実の社会では、食品への昆虫混入問題の頻度が少なくなったことで、逆に発生した時に過剰反応が起こっているようにも思われます。

私たちは、食品害虫に関する正しい情報を提供するこ

とによって、問題が発生した時に冷静な対応を促すことに貯穀害虫・天敵図鑑が貢献できるのではないかと考えています。ただし、従来の貯穀害虫・天敵図鑑は身近な情報発信源として十分に認知されていないため、上記の機能を果たすには改善が必要であると考えました。従来の貯穀害虫・天敵図鑑には、(1) 検索が難しい、(2) 内容の更新がほとんどない、(3) 娯楽性がない、(4) 情報に広がりがない、という問題があり、身近な情報源として気楽に利用できるものではないという印象を与えていたと思います。そこで、身近な情報源として利用してもらうために、2007 年 11 月に食品害虫サイト（図 3）を開設しました⁷⁾。食品害虫サイトでは、貯穀害虫・天敵図鑑に加えて、「この虫何!」、「ニュース」、「コラム」、「食品害虫クイズ」、「用語集」、「リンク集」といったコンテンツを設けました。

専門家でない限り、昆虫の名前は検索の手がかりにな

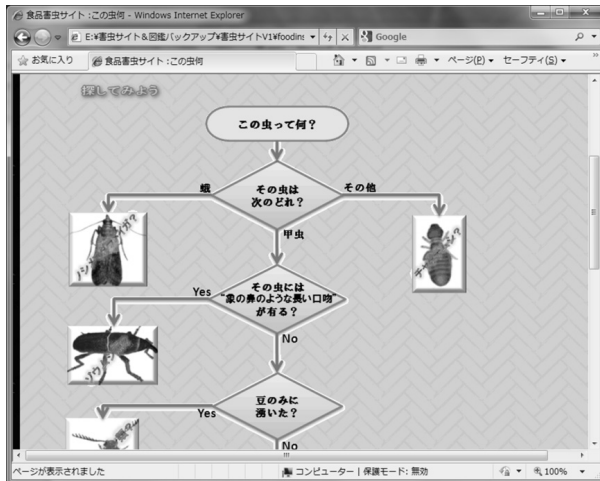


図4 食品害虫サイト（第一版）「この虫何」ページ



図5 食品害虫サイト（第一版）コラムページ例

りません。多くのインターネット図鑑が使いにくいのは、名前や生物学的分類で目的のページにたどり着くことを利用者に要求しているからです。幸い、貯穀害虫・天敵図鑑に掲載されている昆虫の種類は50程度でしたので、すべての昆虫の写真をサムネイルして検索の手がかりにしてもらうことができました。その上で目的のページを探し出すのが難しいという人のために、食品害虫サイトでは「この虫何」という検索支援コンテンツを設けました（図4）。「この虫何」の利用対象者は、家庭で食品に発生した虫を目にして困惑している人です。予備知識がなくても虫の形や虫が発生した食品だけで候補を絞っていきます。最終的には、貯穀害虫・天敵図鑑の各昆虫の解説ページへ、利用者を導くことができるように構成されています。

貯穀害虫・天敵図鑑の更新は減多にないので、利用者は切実な問題が発生した時にしか図鑑を閲覧しなかった



図6 食品害虫サイト（最新版）トップページ

と思われます。しかし、身近な情報発信源となるためには、利用者に忘れられないようにときどき訪問してもらうことが必要です。そのために、食品害虫サイトではニュースとコラム（図5）というコンテンツを設け、関連情報を提供することにしました。ニュースやコラムによって平常時にも食品害虫サイトを訪問してもらえれば目的を達成できたと評価できます。

ニュースとコラム以外に、クイズ、用語集、リンク集といったコンテンツも設けました。ニュースとコラムを含めたこれらのコンテンツによって、図鑑だけでは個別の情報に過ぎなかったものが、サイト全体として関連付けられまとまった知識が得られるようにしたいと考えました。また、クイズとコラムは娯楽性も持たせることにより、特に用事もない時に食品害虫サイトを訪問する人が現れることを期待しました。

4. 食品害虫サイトの発展

2010年に、食品害虫サイトを開設した当初の目的が達成されているのか、アクセス解析とウェブアンケートにより調査しました⁸⁾。この結果は、食品害虫サイトが意図した方向に向かっているものの、まだ改善の余地は残されていることを示していました。そこで、2010年11月に食品害虫サイトを大きく改訂しました（図6）。以下に、改善した点のうちふたつを紹介します。

ひとつめは、食品害虫サイトの全ページで共通のメニューをページの右側に置いたことです。食品害虫サイトでどのような情報が提供されているのか、訪問者がどのページから入ってきて把握できることを目指しました。また、関連する情報を掲載している他のページへのリンクも記載している（図7）ことと合わせ、サイト全体がまとまった情報を提供していることも、利用者に感



図7 食品害虫サイト（最新版）図鑑ページ例

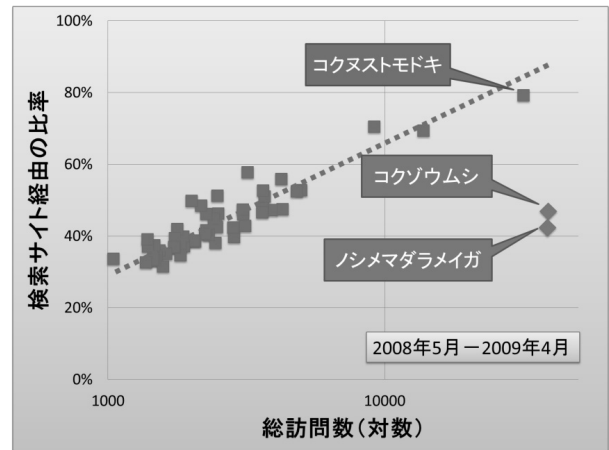


図9 図鑑各ページの総訪問数と検索サイト経由比率の関係

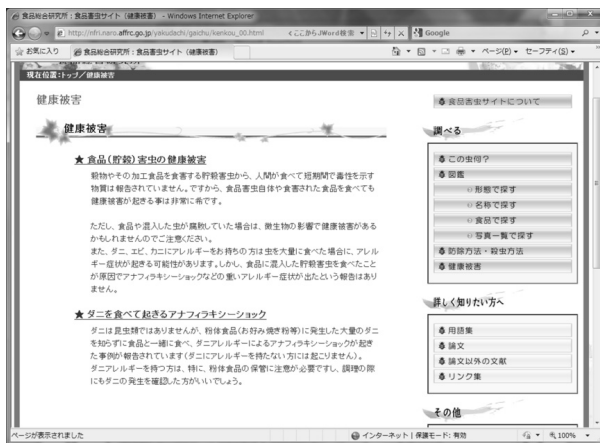


図8 食品害虫サイト（最新版）「健康被害」ページ

してもらえと思っています。

ふたつめは、問い合わせに対する対応です。問い合わせの多い防除方法・殺虫方法と健康被害についてページを設けて説明しました（図8）。さらに、その他の問い合わせの中から当事者以外にも役に立ちそうなものを選び、個人情報等を削除して過去の質問というコンテンツも設けました。通常のデータベースでは発信者と利用者の間の双方向性は期待できません。食品害虫サイトでは、問い合わせに対応していることを質問者以外にも示すことによって、多少双方向性の要素を持った身近な情報発信サイトであることを感じてもらいたいというねらいを持っています。

食品害虫サイトの大幅改訂について、食品害虫サイトのコラム「新しい食品害虫サイト」（http://nfri.naro.affrc.go.jp/yakudachi/gaichu/news/news_014.html）でも説明しています。他の改善点を知りたい方はこちらをご覧ください。

5. おわりに

単なる個別のデータを公開しただけの貯穀害虫・天敵図鑑から、利用者の立場に立って必要だと思われたコンテンツを加え、食品害虫サイトに発展させた考え方とその成果を紹介しました。みなさまの日頃のご活動の参考になれば幸いです。

最後に、貯穀害虫・天敵図鑑というデータベースを所有していたからこそ明らかにできた食品害虫と社会の関係について紹介します⁹⁾。図9は、貯穀害虫・天敵図鑑に掲載されている害虫類のページについて、2008年5月から2009年4月までの訪問数と検索サイト経由の比率の関係をプロットしたグラフです。コクゾウムシとノシメダラメイガを除く集団では、右上がりの直線（点線）の周りに分布しており、総訪問数と検索サイト経由の比率との間に正の相関がありました。検索されるほど訪問数も増加するという事なので、この現象は納得できます。しかし、コクゾウムシとノシメダラメイガについてはこの規則からずれていました。さらに解析をおこなった結果、コクゾウムシとノシメダラメイガの2種と、それ以外の種の間のアクセス行動の違いは、長い年月、社会に注目されてきたかどうかということに起因しているのではないかと推論されました。詳しい説明は食品害虫サイトのコラム「スターのコクゾウムシと一発屋のコクヌストモドキ」（http://nfri.naro.affrc.go.jp/yakudachi/gaichu/column/column_019.html）、または、論文⁹⁾をご覧ください。一方向の情報発信手段とされているデータベースですが、私たちは少しでも利用者のことを知りたいと願いアクセス解析をしました。その結果、思いがけずこのような現象を発見することができまし

た。データベースのちょっと変わった利用法ですが、みなさまの分野でも試してみるとおもしろい結果が得られるかもしれません。

参考文献

- 1) 農林省食糧研究所 (1959) 貯蔵の害虫と防除、食糧、(2):10-18.
http://www.nfri.affrc.go.jp/guidance/kankobutu/kanko_sou41-1/kanko_sou02/02_p010.pdf
- 2) 農林省食糧研究所 (1968) 食品害虫の食性、食糧、(11):85-110.
http://www.nfri.affrc.go.jp/guidance/kankobutu/kanko_sou41-1/kanko_sou11/11_p085.pdf
- 3) 三井英三 (1984) 食品工場における害虫防除ー主として物理的防除方法ー、食糧、(24):49-70.
http://www.nfri.affrc.go.jp/guidance/kankobutu/kanko_sou41-1/kanko_sou24/24_p049.pdf
- 4) 井村治 (1985) 貯蔵食品を加害するマダラメイガ類の生態、食糧、(25):47-76.
http://www.nfri.affrc.go.jp/guidance/kankobutu/kanko_sou41-1/kanko_sou25/25_p047.pdf
- 5) 中北宏、池長裕史 (1994) 貯蔵食品害虫の特徴と防除、食糧、(32):25-56.
http://www.nfri.affrc.go.jp/guidance/kankobutu/kanko_sou41-1/kanko_sou32/32_p025.pdf
- 6) 宮ノ下明大、今村太郎 (2006) 高圧二酸化炭素を用いた貯蔵食品害虫の殺虫技術、食糧、(44):59-72.
http://www.nfri.affrc.go.jp/guidance/kankobutu/pdf/kanko_sou44/p059.pdf
- 7) 曲山幸生、七里与子、宮ノ下明大、今村太郎 (2009) 食品害虫サイトの開設とそのアクセス解析、家屋害虫、31(2):93-99.
<http://ci.nii.ac.jp/lognavi?name=nels&lang=jp&type=pdf&id=ART0009476077>
- 8) 曲山幸生、七里与子、宮ノ下明大、今村太郎、和田有史、増田知尋、木村敦 (2011) ウェブアンケートによる食品害虫サイト利用状況調査、食品総合研究所研究報告、(75):55-61.
http://www.nfri.affrc.go.jp/guidance/kankobutu/pdf/kanko_kikan75/75_p055-061.pdf
- 9) 曲山幸生、七里与子、宮ノ下明大、今村太郎 (2010) アクセス解析から推定した食品害虫の注目度と浸透度、農業情報研究、19(1):1-9.
http://www.jstage.jst.go.jp/article/air/19/1/1/_pdf/-char/ja/

丸善は総合的なサービスで大学図書館をご支援しています

Maruzen will provide comprehensive support for academic libraries

山崎 清宏*

このたびは、貴「日本農学図書館協議会誌」に弊社事業を紹介させていただく機会を頂戴し、心より御礼申し上げます。

また、先の東日本大震災で被災された皆様、ご家族、ならびにご関係者の皆様に心からお見舞い申し上げます。一日も早く日本全体に安心と元気が、以前の状態に戻りますようお願い申し上げます。

1. 丸善株式会社について

(1) 創業の理念

当社は、江戸から明治になったばかりの1869（明治2）年に横浜で創業いたしました。創業者は、福澤諭吉の門下生で、医師であった早矢仕有^{は や し ゆうてき}的という人物です。2年ほど、福澤諭吉の私塾で英学や経済学などを学ぶうちに、日本国にとって、日本人の手により商売を始めることが何よりも急務だという使命感に駆られ、医師から実業家に転じました。

早矢仕が恐れたのは、貿易の権益が外国商人の手に渡ること。看過すればいずれ日本人は外国人の指示の下に奔走する情勢がくることになる。そうなれば、もはや日本国は国では無くなる。国が無くなってしまつては、これまで培ってきた日本の文学、芸術、技術などがすべて役に立たないものになる、ということでした。また、そういう事態を見て見ぬふりをするのは、日本人である自分の恥である。だから早矢仕は、日本国が独立した地位を築くことを企図し、自分が商売に長けているわけではないが、様々な知恵をもつ人材と力を合わせ商売に精進すると宣言したことで、丸善は始まりました。

前段ばかりが長くなりますが、創業の頃のエピソードを一つご紹介します。

当時の商売は、医師であった早矢仕が所有していた医学書などの洋書、医療器機などを売ることから始まったそうです。決して商品が充実していなかったにもかかわらず、商品を見入る日本人の好奇心の旺盛さを目の当たりにした早矢仕は、改めて商売の重要性を感じ取ったようです。またこれが、丸善が歩む方向を決めたといえます。

(2) 現在の経営理念

創業者・早矢仕有^{は や し ゆうてき}的の思いは、現在の「丸善経営理念」となっており、従業員に脈々と受け継がれています。

経営理念を構成する内の一つ、ミッションは「知^{とも}を鑑^{かん}ず丸善」。つまり時代に即した最良の知を提供すること。これこそ、好奇心旺盛に知を求める日本人へ、丸善が明治以来140年余りに亘って果たしてきた使命です。

2. 丸善の営業支援体制

(1) 丸善CHIホールディングス^株について

2010年2月、当社丸善^株は、^株図書館流通センターと経営統合し、「CHIグループ^株（今年5月から「丸善CHIホールディングス^株）」を設立しました。また、丸善^株の店舗事業と出版事業は、それぞれ昨年8月と今年2月に分社し、丸善書店^株と丸善出版^株を新設しましたので、現在は丸善CHIの一事業会社として、大学・研究機関の図書館を運営される皆様の最良のパートナーとなるべく、総合的にご支援しています。中でも、昨年か

* 丸善株式会社 学術情報ソリューション事業部ネットソリューションセンターライブラリー営業部 〒140-0002 東京都品川区東品川4-13-14

Kiyohiro YAMASAKI, Maruzen Co., Ltd., Academic Information Division Library-support Department 4-13-14, Higashishinagawa, Shinagawa-ku, Tokyo, 140-0002, JAPAN

ら(株)図書館流通センターの強力なサポートを得たことにより、従前以上に図書館様をご支援できる体制が整ってきています。

また今年2月からは、大手書店の(株)ジュンク堂書店と、稀覯書や洋書輸入の老舗であり、大学資料のアーカイブ化でも有数の実績を誇る(株)雄松堂書店も丸善 CHI に参加されましたので、当社はこれらの各企業との協業により、書籍コンテンツ流通事業において、多面的なシナジーを発揮できる体制を強化しています。

(2) 丸善のご支援の概要

当社は、質量充実した蔵書構築に少しでもお役に立てるよう、国内外の書籍、雑誌、データベース、貴重一次資料など、学術研究に携わる研究者や学生の皆様に必要なコンテンツをご提供しています。

各大学におかれる昨今の厳しい予算状況下では、特に研究者の需要が最も高い外国雑誌、学生向けにも整備が必須な国内優良書籍、それに電子書籍や各種オンライン版コンテンツをどのように取り揃えていくかが、学術図書館を運営される皆様にとっての最大のご関心事だと思います。

外国雑誌はますます電子化が進み、例えば米国コロンビア大学が雑誌予算の84%を電子版に費やしているとのデータがある一方、日本国内でも理工系専門図書館では既に同様のデータが示されているケースが散見されます。論文執筆を含めた研究者の活動フローの観点からも、利用者が求めるコンテンツをきちんとオンライン版で提供することの重要性は言うまでもありません。

当社では、お客様それぞれの購読戦略に基づくご提案ができるよう、外国雑誌専任の営業担当が各版元との交渉に従事しつつ図書館様を訪問しています。また、包括的にいつでも必要な商品情報、契約情報、その他各種最新ニュースをお届けできるよう、「ライブライブラリアン向

け情報サイト Library Navigator」(<http://kw.maruzen.co.jp/ln/>)をご提供しています。ここでは電子ジャーナルを中心に、学術図書館にお奨めする出版社や商品を網羅的にご選定し、お見積、トライアルなど、そしてご契約にいたるまでの必要最新情報をご提供しています。



学術書の電子化は欧米では勢いよく伸長し、ある調査では米国の大学図書館書籍市場の23%を占めるに至っている模様です。一方の日本国内では、まだまだ国内書籍の電子化が十分に進んでおらず、導入している書籍コンテンツの大半が海外コンテンツ(洋書)という状況です。その規模は大学図書館の書籍購入予算約250億円のうち10億円程度(約4%。海外出版社直接販売分や、データベース類を除く)との試算があります。今後の見通しも諸説あり、一般的には、出版社は電子書籍のビジネスモデルを試行錯誤して構築している段階です。ただ利用者の観点に立てば、研究活動、教育や自習には利便性の高いものであり、新たな有益なソリューションとしての電子書籍の可能性は大きいものと捉えられています。

一部の大学図書館では出版社やIT企業、学生らを巻き込んだ電子書籍関連プロジェクトを始動させ、また出版業界としての標準化等の動きがあります。当社においてもそれらに関わらせていただきながら、一方で学術出版社と網羅的に連携することで、学術図書館に必要なコンテンツ、機能を備えたご提案を差し上げる準備を着々と進めているところです。なお、すでにスタートさせているサービスとしましては、当社は今年6月から個人の研究者様でご契約いただく学術書電子書籍販売があります。お蔭様でご好評いただいております。実際にご利用になる研究者様の電子書籍に対する期待、需要を強く感じているところです。販売しているタイトルは、丸善の会員制選書発注システム「Knowledge Worker (ナレッジワーカー/3.(2)で詳述)」にて販売していますので、是非一度ご覧ください。

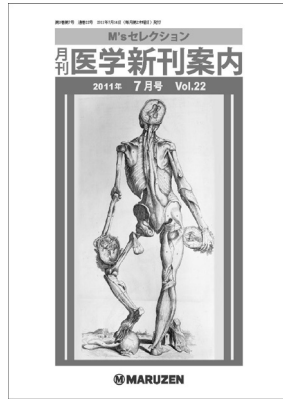
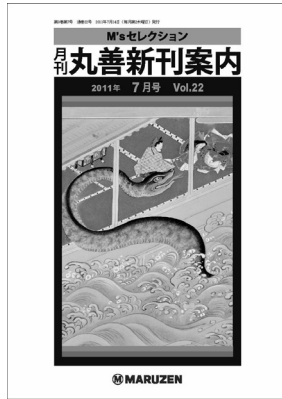
その他、学術図書館様のサービス品質の向上や、業務が効率的に行なえるよう、様々なソリューションメニューをご用意しています。

3. 丸善の図書館様向けサービス

～M's ライブラリー(装備付納品システム)～

丸善は、図書館の皆様にお役立ていただけるよう、「選書」「発注」「装備・データ作成」「納品」までをトータルにサポートしています。





(1) 選書をサポート：『丸善新刊案内』

当社は、学術図書館の皆様が、年間約7万点といわれる新刊書籍の中から効率的に選書いただけるように、学術書、専門書を中心に新刊情報を掲載した『丸善新刊案内』を毎月刊行しています。当社の「本編（人社理工）」と「医学編」の2種類からなる『丸善新刊案内』は、学術図書館などの研究・教育機関向けに、丸善の専門スタッフが学術書を中心に選書し、さらに図書館蔵書としての価値判断を3段階ランクして編集発行しています。公共図書館や書店向けなど一般的な新刊情報を網羅した情報誌は他にもありますが、他に類を見ない内容となっています。

ここには、専門書出版社の新刊を全て、そして丸善の過去の実績を元に、学術図書館に適したタイトル約3万点（40%強）を選定し、網羅的に掲載しています。また、従来のカタログでは漏れていた資格試験向けテキスト、復刻出版物、統計や白書などの政府刊行物も掲載していますので、研究者の方から学生まで、幅広いニーズにお応えできる内容となっています。

なお、掲載外のいわゆる一般書についても、(株)図書館流通センターのお薦めや、新聞の書評掲載タイトル、丸善店頭のパストセラーなどを別冊（月刊）でご案内しています。

このように『丸善新刊案内』は、学術図書館が取り揃えるべき国内の新刊学術書、専門書、テキスト類などの情報をすべて網羅しています。皆様にご利用いただくことで、手間と時間の節約だけでなく、選書が効率的・効果的にできるツールとなっています。

また選書いただいた書籍を発注する場合には、『丸善新刊案内』に掲載の各タイトルにバーコードが付記されていますので、次項の「Knowledge Worker」をお使いいただくと更に業務の効率化が図れます。

(2) 選書、発注をサポート：Knowledge Worker

当社は会員制選書発注システム（オンライン書店）



「Knowledge Worker」を展開しています。2010年12月に大幅にリニューアルし、学術図書館の皆様の業務フローに沿って更に使いやすくなりました。

この「Knowledge Worker」は、和書は約300万件、洋書は約800万件にのぼる情報量です。前述の『丸善新刊案内』の電子版も掲載しており、クリック一つで選書、発注も可能です。さらに、国内外の出版社が提供している幅広い電子版資料や、学術的価値の評価（ランク）、学会や社会での関心事に応じた特集、毎月の新刊情報、そして視聴覚資料や図書館用品に至るまで、目的、用途、ご予算の規模に応じたコンテンツをご提案しています。そして選書、ご注文のみならず、お見積等もメールでご依頼いただけるなど、図書館を運営される皆様にとってワンストップで業務いただけるサイトになっています。

①選書機能

前述の通り、丸善ならではの各種書籍の膨大な情報量を誇り、一般流通書籍のほとんどが検索・購入可能です。これだけある情報の中から、アラート機能を利用していち早く情報をお届けすることも可能です。

②発注機能

検索でヒットした書籍を“カート”に入れてご購入いただく基本機能の他、『丸善新刊案内』と連携した“バーコード読み取り発注”、書籍リストをファイル毎に発注できる“発注ファイル取り込み機能”、図書館への選書リクエストをWEB上で簡易に行える“承認発注機能”など、図書館業務を想定した、多様な機能を用意しています。また当社への発注済タイトルとの重複チェックにより、不必要な重複発注を避ける機能もあります。

③管理機能・受入機能

発注時にご入力いただいた注文番号を、納品書へバーコードで記載いたします。これにより皆様がお使いの各種図書館システムで簡単に情報を呼び出し、受入処理が楽になります。また、最大 25 項目までカスタマイズできますので、例えば予算区分やメモなど、発注時にご入力いただいたものが全て納品書に出力されることで、検品時の確認作業も効率よく行なえます。

他にも、配送日指定やまとめ納品、請求書同送など、お客様のご要望に柔軟に対応しています。

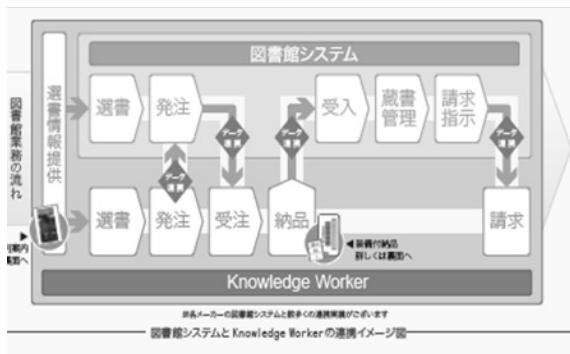
④決済機能

個人の方のクレジットカード決済はもちろん、図書館様のご要望に応じた公費、私費等の請求指示決済が可能です。

締め日や、必着日の指定（ある程度の日には必要となります）の他、予算や金額毎の分割も可能です。次期リリース機能として、WEB 上から請求書発行の指示が可能な、請求指示機能も準備しているところです。こちらの機能もご期待ください。

⑤図書館システムとの連携

複数の図書館システムと連携の実績があります。図書



館システムと連携することで、書店の流通情報から検索・仮発注をした後で、図書館システムにデータを取り込み、管理番号の付与、蔵書との重複チェックなどが行なえます。その上で「Knowledge Worker」に正式発注いただければ、図書館で働く皆様の業務負担を軽減できるだけでなく、紙の出力の無駄や、各種処理時のヒューマンエラーを防ぐこともできます。

連携可能かどうかについては、ご利用の図書館システムによって異なりますので、ご相談ください。

⑥その他図書館様向け機能

到着履歴や状況確認などに使用可能な注文状況一覧機能、蔵書の資産管理機能、予算管理機能、これまでのご

利用実績の抽出が可能なレポート出力機能など、他にも多彩な機能を用意しています。



以上の「Knowledge Worker」は、検索機能まではフリーアクセスですので、下記 URL へアクセスいただき、「Knowledge Worker」をご体験ください。

<http://kw.maruzen.co.jp/>

(3) 装備・データ作成・納品：TRC 新座ブックナリー

「装備・データ作成」ですが、当社と(株)図書館流通センターとの協業のもと、同社の物流基地「新座ブックナリー」にて在庫及び装備を、24 時間稼働体制にて行なっています。この物流基地は、高度な品質管理、図書物流の一環体制にて、早期の装備・納品を実現しています。その特長は次の通りです。

①早期納品

新座ブックナリーの在庫能力は最大 200 万冊で、『丸善新刊案内』に掲載のタイトルは 10 週間在庫を確保しています。このため、在庫切れという状況もほとんどありません。また 24 時間稼働のため、最短 1 週間 (NC データ付の装備付納品の場合は最短 10 営業日) で、装備付「早期納品」を実現します。

②低価格

新座ブックナリーでの大量集中処理による業務効率化、装備仕様の標準化により、業界最高水準の生産性が確立されていますので、低価格でのご提供が可能です。

なお請求記号は、(株)図書館流通センターの書誌データベース「TRC MARC」を基に自動付与しています。

③高品質

装備についても、IT システムを駆使して均質かつ高品質な装備作業を確立しています。また世界初の高速フィルムコーティング機も導入しています。なお、洋書や特殊な装備・データ作成が必要な場合は、「MaruzenCATS センター」にて承っています。



以上のように、『丸善新刊案内』、「Knowledge Worker」、新座ブックナリーでの装備、データ作成をご活用いただくことで、図書館で働く皆様の選書、発注、装備業務等を総合的にご支援しています。これらにより、皆様の業務効率化を実現すると共に、利用者サービスの向上も実現できるものと考えています。

4. 丸善の図書館様向けソリューション

丸善では、商品を納入させていただき、以下にご紹介するソリューションメニューもご提供しています。

図書館を運営される皆様が何かご不便を感じられることがある場合、ご相談いただければと存じます。

(1) 図書館のサービス品質評価システム「LibQUAL+® (ライプカル)」

図書館で働く皆様は、図書館サービス向上のために実施した施策がどれだけ効果があったのか、その評価・検証でお悩みになったことはありませんでしょうか。

当社がご紹介する「LibQUAL+®」は、Association of



Research Libraries (ARL) が提供する図書館に特化したサービス品質を査定する評価システムです。図書館の世界 20 カ国、大学やその他学術団体などの関連図書館 1,110 館が調査に参加し、累計 1,700 回以上の評価実績があります。現在では設問内容もブラッシュアップされ、リーズナブルに図書館に対する利用者のニーズを把握し、品質、サービスの改善を図ることができます。

① 調査方法

LibQUAL+®は、図書館利用者が約 11 分間の web アンケートに回答いただくことで実施します。アンケートは英語版・日本語版で提供され、利用者からのサービスの品質に関する意見を集約、相対的評価を抽出し、図書館サービスの改善に向けたアドバイスを提供します。

実施期間は約 2 週間で、回収後約 2 週間で ARL から結果報告書用の URL が送付されます。結果報告書にはバーチャートやレーダーチャートなども交え、グラフィカルに結果を確認いただけます。

② 設問内容

利用者に回答いただく「LibQUAL+®」の設問は、“サービスへの姿勢” “情報の管理” “場所としての図書館” と

いう 3 つの側面から図書館のサービス品質を評価します。22 の質問に対し、“最低限のレベル” “望ましいレベル” “実際のレベル” の 3 種類の観点から、1～9 点で採点する方式をとります。この各レベルの点数ギャップを見ることで、現状と理想の距離感などを掴むことができます。

また、他にもオリジナル項目として 5 つお選びいただくことも可能です。設問の最後には、コメント入力欄もあり、利用者からの生の声も確認することが可能です。

③ 「LibQUAL+®」の活用方法

図書館への期待、不満、改善点を把握することで今後の図書館運営を定量的 (スコア分析)、定性的 (コメント分析) に理解し、施設の改修、人材育成、情報環境の見直しなど多角的に活用することができます。実際の活用事例としては、資料・情報環境の整備、長中期的な事業計画の策定、他大学・他機関との比較検討、図書館の増改築、新設などがあります。

④ 丸善のサービス

当社では「LibQUAL+®」を実施する際の、基本コンサルティング、導入支援・登録補助、アンケート進捗管理、レポート翻訳、スコア・コメント分析評価レポート、評価報告分析調査、アンケート回収促進などのご支援をいたします。

(2) 適及入力サービス

図書館や資料室でお持ちの資料のうち、「特殊言語の資料に対応できず、データ適及ができない」、あるいは「寄贈本が多い時などでも、一時的なスタッフ増員が叶わず、自前での適及は難しい」等の理由により、まだ整理ができていない資料があると思います。丸善の適及入力サービスは、そのようなお客様のニーズにお応えし、出張作業を含め、以下のサービス内容で柔軟に対応しています。ご利用いただくことにより、古い蔵書の再整理、寄贈コレクション、移管図書、特殊言語等のデータ化を実現できます。

① 分類 (請求記号等) ・装備

日本十進分類法 (NDC)、デューイ十進分類法 (DDC)、四部分類、看護分類、日本著者記号表等に対応可能です。また、バーコード貼付、IC タグ貼付、背ラベル作成・貼付、ラベルキーパー貼付等の装備作業も承っています。

② 多様な資料への対応

和図書・古書、漢籍、貴重資料、教科書のほか、展示会カタログ、パンフレット等、多様な資料に対応しています。

③多言語への対応

対応可能な言語は、英語、ドイツ語、フランス語、スウェーデン語、オランダ語、ラテン語、ギリシャ語、ロシア語、中国語、韓国語、アラビア語、タイ語、エスペラント語等、様々な言語に対応しています。

(3) 蔵書点検サービス

蔵書点検は、図書館利用者へよりよいサービスを提供するために不可欠な作業です。しかしながら、蔵書点検の実施のための熟練スタッフの確保は難しく、とはいえ日常業務の合間に行うには時間的制約のほか、労務的負荷が大きくなります。また実施のために閉館が余儀なくされる場合には、利用者にご不便をかけることもあります。

当社では、そのような点でお困りの図書館様に蔵書点検の外注化をお奨めしています。

丸善の蔵書点検サービスの特長は以下の通りです。

- ①閉館から、翌日の開館までに作業を完了。
- ②熟練の人材と、ハンディーターミナルなどの機材はすべて当社からご提供。
- ③図書館様のシステムに応じたデータをご提出。

このように丸善の蔵書点検サービスは、事前準備から集計結果の提出まで一貫したサービスのご提供により、より一層、学術図書館の機能が向上されと考えます。

(4) 図書館業務の運営支援

当社では、大学図書館様のニーズに即した運営と、充実した利用者サービスを提供する運営業務のご支援も行なっています。

大学図書館様の品質維持・向上に寄与するため、図書館様と共に丸善のスタッフが各種ガイダンス・利用者教育のお手伝い、巡回スタッフによる業務検証、夜間運営への対応などの業務を受託しています。昨今は、学生ボランティアスタッフの積極的な参加を得る大学図書館もあるなど、そのご支援の幅は年を追って広がってきています。

(5) リーフレット「丸善ライブラリーニュース」

「丸善ライブラリーニュース」は、昭和 33（1958）年に創刊した図書館関係者の皆様にご愛顧いただいた図書

館に関する総合情報リーフレットで、18 年の休刊期間を経て 2008（平成 20）年に復刊いたしました。

この「丸善ライブラリーニュース」は、各大学図書館に従事される方はもちろん、工学、言語学などの研究者のほか、大学トップやマスコミなど、様々な視点をお持ちの方から論文をお寄せいただいています。最新号は当社のホームページからパート毎にダウンロード（無料）いただけますので、様々な学術図書館の動向の情報獲得にお役立てください。

http://www.maruzen.co.jp/business/edu/lib_news/index.html

5. 丸善電子図書館サービス

丸善では、2010 年 10 月より図書館様向け電子図書館サービスをスタートしています。このサービスは、学術図書館をはじめ、学生、研究者など幅広い図書館利用者へ「本に出会う場を数多く創出」、「読みたい本を多様なメディアで展開」するため、紙の書籍と電子コンテンツの双方をご提供する“ハイブリッド型図書館”をご提案しています。この電子図書館の特徴的な 4 つのサービス内容をご紹介します。

①電子書籍コンテンツの配信・販売

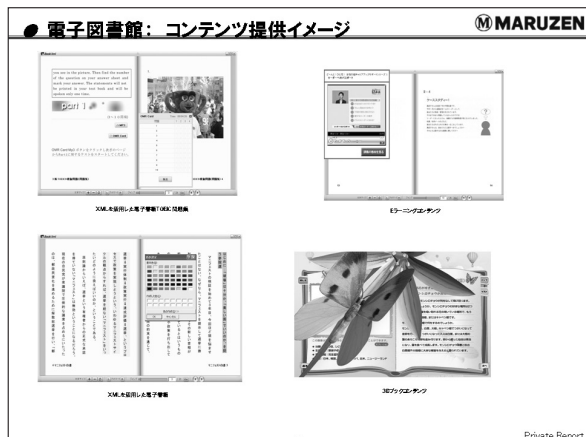
電子図書館では、出版社から利用許諾を得た「自然科学」、「人文社会」関連書籍や、「実用書」、「練習問題集」など、図書館での蔵書が難しい書籍の電子書籍コンテンツを中心に、約 5,000 タイトル配信・販売しています。当サービスでは、PDF、XML など様々なフォーマットのコンテンツに対応しているため、動画、音声、インタラクティブ性等を活かした電子書籍の閲覧、利用が可能です。

また、コンテンツの違法コピー防止などのセキュリティ対策については、ダウンロード、コピー、印刷制限など、高度なデジタル著作権管理（DRM : Digital Rights Management）を行っています。

②デジタルアーカイブの発信

デジタル化ニーズの高い、学術図書館が保有する貴重書、論文、独自資料などを、この電子図書館のプラットフォームで公開することが可能です。保有コンテンツのデジタル化のご支援として、当社が国立国会図書館や公共・大学図書館で培った、デジタルアーカイブ化、データベース化のソリューションをご提供しています。

③図書館からの情報発信



図書館発行のブックレットなどの情報冊子を電子化し、電子図書館上で貸出書籍とあわせて閲覧することができます。また、これら図書館の情報発信支援として、電子図書館向けコンテンツ制作もご支援いたします。

④ 既存図書館システムとの連携

電子図書館では、ハイブリッド型図書館の実現に向けて、既に大手図書館システムとの OPAC 連携を実現しています。OPAC 連携を実現することによって、図書館の利用者は電子書籍と紙の書籍の区別を意識すること無く、必要な情報をシームレスな検索・閲覧が実現されます。

6. 丸善の研究者様向け支援サービス

(1) 英文校正・多言語翻訳サービス

いま、研究成果の海外への成果発信や、国際的な大学評価活動の展開、さらには大学情報の海外発信が必要とされるなか、丸善では医学論文から文系科目の学術論文まであらゆる専門分野を網羅した英文校正・多言語翻訳サービスをご提供いたします。

まず英文校正サービスでは、欧米の英文校正業界が定義する Substantive-Edit (サブスタンスティブ・エディティング) と呼ばれるレベルの校正を提供いたします。言語的な側面からの修正に加えて、論文の流れや構成を点検し、原稿がより論理的な展開になるように、また、執筆者の意図がより効果的に読者に伝わるように書き直しを行います。校正対象は、投稿論文のほか、技術マニュアル、ビジネス文書、法務文書（特許等）、医薬文書（薬事申請書等）にいたる様々な文書に対応いたします。英文校正者は全員英語のネイティブスピーカーで、マサチューセッツ工科大学 (MIT)、ハーバード大学、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学など、世界屈指の名門大学卒業者を中心とし、校正歴は平均 19.4 年のキャリアを誇ります。

多言語翻訳サービスでは、校正サービスと同様に海外ジャーナルへの投稿論文の英文翻訳から、さまざまなドキュメントのあらゆる分野の多言語翻訳サービスを提供しています。特に日英翻訳サービスでは、平均 10 年のキャリアをもつ翻訳者が担当し、その後バイリンガルによるクロスチェック、最後に英語のネイティブスピーカーであるプロの英文校正者がチェックして完成させます。このような体制から、高品質の翻訳成果をお客様にお届けしています。

また最近では、大学情報を積極的に海外発信する観点

から、ホームページの多言語翻訳サービスを国立大学中心に広くご利用いただいています。

(2) ハイブリッド・パブリッシングサービス

当サービスは、多種多様な学術資源を、お客様の目的に合わせてアウトプットする多彩なサービスです。小ロット対応や、電子出版を視野にいたしたサービスなど、様々なシーンやニーズに対応したサービスをご提供することで、無駄のない効率的な学術情報の発信を実現しています。

プリント・オン・デマンド（POD）サービスでは、「必要なときに必要な部数を刷る」ことで、短納期・小ロットに対応できるだけでなく、利用者が好きなときに改訂したり増刷したりすることが可能です。

ISBN 付き出版サービスは、「自分の研究業績を研究論文集にして出版したい」「授業用の教科書・教材・参考書として執筆・出版し、自分の授業を履修している学生に使わせたい」といったご要望にお応えし、ISBN 付き書籍としてご提供するものです。ご相談によっては、丸善出版㈱の発売書として、全国の丸善書店をはじめとする大型書店での販売をサポートいたします。

また最近では、再びリポジトリ導入機運が高まるなか、論文編集支援サービスを立ち上げました。研究紀要作成において、執筆要項の作成から校正、進捗管理、さらには発行・情報公開までを一括してサポートすることで、質の高い論文を効率良く制作し、研究者や事務局の方々の課題解決の一役を担っています。

7. 大学図書館の環境づくりについて

最後にご紹介するのは、丸善が一級建築士事務所だからできる、大学様や大学図書館様の空間・環境づくりに関するコンサルティングのご提案についてです。

いま、日本の高等教育は、社会で求められる課題解決力を保有する人材輩出が求められています。その目的のため、大学教育の改革が迫られ、授業内容も“協調学習型”の授業が取り入れられるなど多様化しつつあります。そういった背景から、大学図書館のかたちも変化してきています。

当社がご提案するのは「ラーニングコモンズ」という考え方です。ラーニングコモンズは、学習支援が中心的な役割をもつため、図書館のほか、語学センター、学習支援センター、キャリアセンターなどとの連携による、学生向けの学習支援の総合的な場です。

当社は、“静”と“活”が共存し、移動可能で学習し

やすい家具、フレキシブルな空間、カフェ・ラウンジなどの交流施設、情報機器が活用できる空間などを統合した学習支援環境、つまり学生が相互に「情報獲得（好奇心をもつ）」「交流する（刺激しあう）」「表現する（アイデアを表に出す）」を循環させる“環境”をご提案しています。なお、そういった空間で協調学習を体験した学生は、卒業後の社会で必要とされるスキル「考える力」「まとめる力」を身につけて活躍し始めています。

当社は、まずコンサルティングさせていただき、その後、具体的構想をビジュアル化してご提案していますので、商品やサービスのご提供という側面のみならず、空間に関するご相談も、当社へお寄せください。



8. さいごに

天然資源に乏しい日本にとって、唯一の資源といえるのは人材です。その人材育成に欠かせないのが「知」であり、その「知」を得る場です。

昨今はインターネットにより、欲しい情報を得ることは容易になっています。しかしその断片的な情報が果たして「知」であるのか、真贋を見極めるための情報の体系化を行なえる人材は、残念ながら以前に比べて減少してきているように思われます。

当社は、得た断片的な情報を体系的にまとめる力を養う場の一つが図書館、とくに学術図書館だと考えます。当社はこれからも、学術図書館へ様々な商品やサービスをご提供することを通じて、日本の産業を支える人材輩出のため、微力ながらご支援してまいりたいと考えております。

丸善は総合的なサービスで大学図書館をご支援しています

Maruzen will provide comprehensive support for academic libraries

山崎 清宏*

このたびは、貴「日本農学図書館協議会誌」に弊社事業を紹介させていただく機会を頂戴し、心より御礼申し上げます。

また、先の東日本大震災で被災された皆様、ご家族、ならびにご関係者の皆様に心からお見舞い申し上げます。一日も早く日本全体に安心と元気が、以前の状態に戻りますようお願い申し上げます。

1. 丸善株式会社について

(1) 創業の理念

当社は、江戸から明治になったばかりの1869（明治2）年に横浜で創業いたしました。創業者は、福澤諭吉の門下生で、医師であった早矢仕有^{は や し ゆうてき}的という人物です。2年ほど、福澤諭吉の私塾で英学や経済学などを学ぶうちに、日本国にとって、日本人の手により商売を始めることが何よりも急務だという使命感に駆られ、医師から実業家に転じました。

早矢仕が恐れたのは、貿易の権益が外国商人の手に渡ること。看過すればいずれ日本人は外国人の指示の下に奔走する情勢がくることになる。そうなれば、もはや日本国は国では無くなる。国が無くなってしまつては、これまで培ってきた日本の文学、芸術、技術などがすべて役に立たないものになる、ということでした。また、そういう事態を見て見ぬふりをするのは、日本人である自分の恥である。だから早矢仕は、日本国が独立した地位を築くことを企図し、自分が商売に長けているわけではないが、様々な知恵をもつ人材と力を合わせ商売に精進すると宣言したことで、丸善は始まりました。

前段ばかりが長くなりますが、創業の頃のエピソードを一つご紹介します。

当時の商売は、医師であった早矢仕が所有していた医学書などの洋書、医療器機などを売ることから始まったそうです。決して商品が充実していなかったにもかかわらず、商品を見入る日本人の好奇心の旺盛さを目の当たりにした早矢仕は、改めて商売の重要性を感じ取ったようです。またこれが、丸善が歩む方向を決めたといえます。

(2) 現在の経営理念

創業者・早矢仕有^{は や し ゆうてき}的の思いは、現在の「丸善経営理念」となっており、従業員に脈々と受け継がれています。

経営理念を構成する内の一つ、ミッションは「知^{とも}を鑑^{かん}ず丸善」。つまり時代に即した最良の知を提供すること。これこそ、好奇心旺盛に知を求める日本人へ、丸善が明治以来140年余りに亘って果たしてきた使命です。

2. 丸善の営業支援体制

(1) 丸善CHIホールディングス^株について

2010年2月、当社丸善^株は、^株図書館流通センターと経営統合し、「CHIグループ^株（今年5月から「丸善CHIホールディングス^株）」を設立しました。また、丸善^株の店舗事業と出版事業は、それぞれ昨年8月と今年2月に分社し、丸善書店^株と丸善出版^株を新設しましたので、現在は丸善CHIの一事業会社として、大学・研究機関の図書館を運営される皆様の最良のパートナーとなるべく、総合的にご支援しています。中でも、昨年か

* 丸善株式会社 学術情報ソリューション事業部ネットソリューションセンターライブラリー営業部 〒140-0002 東京都品川区東品川4-13-14

Kiyohiro YAMASAKI, Maruzen Co., Ltd., Academic Information Division Library-support Department 4-13-14, Higashishinagawa, Shinagawa-ku, Tokyo, 140-0002, JAPAN

ら(株)図書館流通センターの強力なサポートを得たことにより、従前以上に図書館様をご支援できる体制が整ってきています。

また今年2月からは、大手書店の(株)ジュンク堂書店と、稀覯書や洋書輸入の老舗であり、大学資料のアーカイブ化でも有数の実績を誇る(株)雄松堂書店も丸善 CHI に参加されましたので、当社はこれらの各企業との協業により、書籍コンテンツ流通事業において、多面的なシナジーを発揮できる体制を強化しています。

(2) 丸善のご支援の概要

当社は、質量充実した蔵書構築に少しでもお役に立てるよう、国内外の書籍、雑誌、データベース、貴重一次資料など、学術研究に携わる研究者や学生の皆様に必要なコンテンツをご提供しています。

各大学におかれる昨今の厳しい予算状況下では、特に研究者の需要が最も高い外国雑誌、学生向けにも整備が必須な国内優良書籍、それに電子書籍や各種オンライン版コンテンツをどのように取り揃えていくかが、学術図書館を運営される皆様にとっての最大のご関心事だと思います。

外国雑誌はますます電子化が進み、例えば米国コロンビア大学が雑誌予算の84%を電子版に費やしているとのデータがある一方、日本国内でも理工系専門図書館では既に同様のデータが示されているケースが散見されます。論文執筆を含めた研究者の活動フローの観点からも、利用者が求めるコンテンツをきちんとオンライン版で提供することの重要性は言うまでもありません。

当社では、お客様それぞれの購読戦略に基づくご提案ができるよう、外国雑誌専任の営業担当が各版元との交渉に従事しつつ図書館様を訪問しています。また、包括的にいつでも必要な商品情報、契約情報、その他各種最新ニュースをお届けできるよう、「ライブライブラリアン向

け情報サイト Library Navigator」(<http://kw.maruzen.co.jp/ln/>)をご提供しています。ここでは電子ジャーナルを中心に、学術図書館にお奨めする出版社や商品を網羅的にご選定し、お見積、トライアルなど、そしてご契約にいたるまでの必要最新情報をご提供しています。



学術書の電子化は欧米では勢いよく伸長し、ある調査では米国の大学図書館書籍市場の23%を占めるに至っている模様です。一方の日本国内では、まだまだ国内書籍の電子化が十分に進んでおらず、導入している書籍コンテンツの大半が海外コンテンツ(洋書)という状況です。その規模は大学図書館の書籍購入予算約250億円のうち10億円程度(約4%。海外出版社直接販売分や、データベース類を除く)との試算があります。今後の見通しも諸説あり、一般的には、出版社は電子書籍のビジネスモデルを試行錯誤して構築している段階です。ただ利用者の観点に立てば、研究活動、教育や自習には利便性の高いものであり、新たな有益なソリューションとしての電子書籍の可能性は大きいものと捉えられています。

一部の大学図書館では出版社やIT企業、学生らを巻き込んだ電子書籍関連プロジェクトを始動させ、また出版業界としての標準化等の動きがあります。当社においてもそれらに関わらせていただきながら、一方で学術出版社と網羅的に連携することで、学術図書館に必要なコンテンツ、機能を備えたご提案を差し上げる準備を着々と進めているところです。なお、すでにスタートさせているサービスとしましては、当社は今年6月から個人の研究者様でご契約いただく学術書電子書籍販売があります。お蔭様でご好評いただいております、実際にご利用になる研究者様の電子書籍に対する期待、需要を強く感じているところです。販売しているタイトルは、丸善の会員制選書発注システム「Knowledge Worker (ナレッジワーカー/3.(2)で詳述)」にて販売していますので、是非一度ご覧ください。

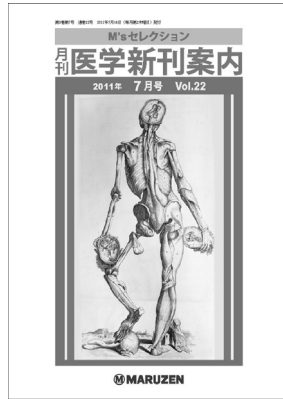
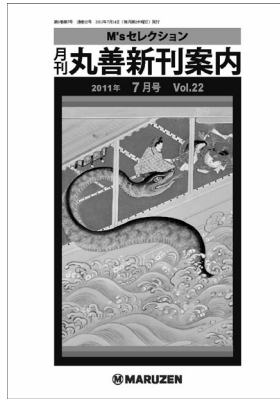
その他、学術図書館様のサービス品質の向上や、業務が効率的に行なえるよう、様々なソリューションメニューをご用意しています。

3. 丸善の図書館様向けサービス

～M's ライブラリー(装備付納品システム)～

丸善は、図書館の皆様にお役立ていただけるよう、「選書」「発注」「装備・データ作成」「納品」までをトータルにサポートしています。





(1) 選書をサポート：『丸善新刊案内』

当社は、学術図書館の皆様が、年間約7万点といわれる新刊書籍の中から効率的に選書いただけるように、学術書、専門書を中心に新刊情報を掲載した『丸善新刊案内』を毎月刊行しています。当社の「本編（人社理工）」と「医学編」の2種類からなる『丸善新刊案内』は、学術図書館などの研究・教育機関向けに、丸善の専門スタッフが学術書を中心に選書し、さらに図書館蔵書としての価値判断を3段階ランクして編集発行しています。公共図書館や書店向けなど一般的な新刊情報を網羅した情報誌は他にもありますが、他に類を見ない内容となっています。

ここには、専門書出版社の新刊を全て、そして丸善の過去の実績を元に、学術図書館に適したタイトル約3万点（40%強）を選定し、網羅的に掲載しています。また、従来のカタログでは漏れていた資格試験向けテキスト、復刻出版物、統計や白書などの政府刊行物も掲載していますので、研究者の方から学生まで、幅広いニーズにお応えできる内容となっています。

なお、掲載外のいわゆる一般書についても、(株)図書館流通センターのお薦めや、新聞の書評掲載タイトル、丸善店頭のパストセラーなどを別冊（月刊）でご案内しています。

このように『丸善新刊案内』は、学術図書館が取り揃えるべき国内の新刊学術書、専門書、テキスト類などの情報をすべて網羅しています。皆様にご利用いただくことで、手間と時間の節約だけでなく、選書が効率的・効果的にできるツールとなっています。

また選書いただいた書籍を発注する場合には、『丸善新刊案内』に掲載の各タイトルにバーコードが付記されていますので、次項の「Knowledge Worker」をお使いいただくと更に業務の効率化が図れます。

(2) 選書、発注をサポート：Knowledge Worker

当社は会員制選書発注システム（オンライン書店）



「Knowledge Worker」を展開しています。2010年12月に大幅にリニューアルし、学術図書館の皆様の業務フローに沿って更に使いやすくなりました。

この「Knowledge Worker」は、和書は約300万件、洋書は約800万件にのぼる情報量です。前述の『丸善新刊案内』の電子版も掲載しており、クリック一つで選書、発注も可能です。さらに、国内外の出版社が提供している幅広い電子版資料や、学術的価値の評価（ランク）、学会や社会での関心事に応じた特集、毎月の新刊情報、そして視聴覚資料や図書館用品に至るまで、目的、用途、ご予算の規模に応じたコンテンツをご提案しています。そして選書、ご注文のみならず、お見積等もメールでご依頼いただけるなど、図書館を運営される皆様にとってワンストップで業務いただけるサイトになっています。

①選書機能

前述の通り、丸善ならではの各種書籍の膨大な情報量を誇り、一般流通書籍のほとんどが検索・購入可能です。これだけある情報の中から、アラート機能を利用していち早く情報をお届けすることも可能です。

②発注機能

検索でヒットした書籍を“カート”に入れてご購入いただく基本機能の他、『丸善新刊案内』と連携した“バーコード読み取り発注”、書籍リストをファイル毎に発注できる“発注ファイル取り込み機能”、図書館への選書リクエストをWEB上で簡易に行える“承認発注機能”など、図書館業務を想定した、多様な機能を用意しています。また当社への発注済タイトルとの重複チェックにより、不必要な重複発注を避ける機能もあります。

③管理機能・受入機能

発注時にご入力いただいた注文番号を、納品書へバーコードで記載いたします。これにより皆様がお使いの各種図書館システムで簡単に情報を呼び出し、受入処理が楽になります。また、最大 25 項目までカスタマイズできますので、例えば予算区分やメモなど、発注時にご入力いただいたものが全て納品書に出力されることで、検品時の確認作業も効率よく行なえます。

他にも、配送日指定やまとめ納品、請求書同送など、お客様のご要望に柔軟に対応しています。

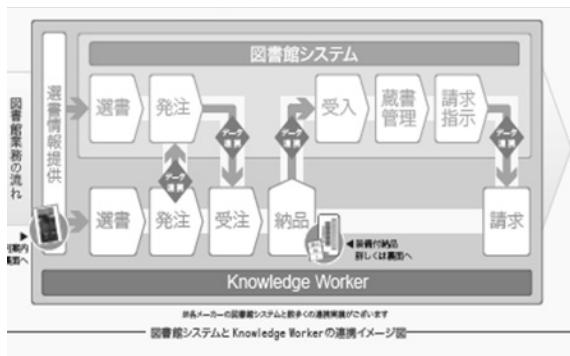
④決済機能

個人の方のクレジットカード決済はもちろん、図書館様のご要望に応じた公費、私費等の請求指示決済が可能です。

締め日や、必着日の指定（ある程度の日には必要となります）の他、予算や金額毎の分割も可能です。次期リリース機能として、WEB 上から請求書発行の指示が可能な、請求指示機能も準備しているところです。こちらの機能もご期待ください。

⑤図書館システムとの連携

複数の図書館システムと連携の実績があります。図書



館システムと連携することで、書店の流通情報から検索・仮発注をした後で、図書館システムにデータを取り込み、管理番号の付与、蔵書との重複チェックなどが行なえます。その上で「Knowledge Worker」に正式発注いただければ、図書館で働く皆様の業務負担を軽減できるだけでなく、紙の出力の無駄や、各種処理時のヒューマンエラーを防ぐこともできます。

連携可能かどうかについては、ご利用の図書館システムによって異なりますので、ご相談ください。

⑥その他図書館様向け機能

到着履歴や状況確認などに使用可能な注文状況一覧機能、蔵書の資産管理機能、予算管理機能、これまでのご

利用実績の抽出が可能なレポート出力機能など、他にも多彩な機能を用意しています。



以上の「Knowledge Worker」は、検索機能まではフリーアクセスですので、下記 URL へアクセスいただき、「Knowledge Worker」をご体験ください。

<http://kw.maruzen.co.jp/>

(3) 装備・データ作成・納品：TRC 新座ブックナリー

「装備・データ作成」ですが、当社と(株)図書館流通センターとの協業のもと、同社の物流基地「新座ブックナリー」にて在庫及び装備を、24 時間稼働体制にて行なっています。この物流基地は、高度な品質管理、図書物流の一環体制にて、早期の装備・納品を実現しています。その特長は次の通りです。

①早期納品

新座ブックナリーの在庫能力は最大 200 万冊で、『丸善新刊案内』に掲載のタイトルは 10 週間在庫を確保しています。このため、在庫切れという状況もほとんどありません。また 24 時間稼働のため、最短 1 週間 (NC データ付の装備付納品の場合は最短 10 営業日) で、装備付「早期納品」を実現します。

②低価格

新座ブックナリーでの大量集中処理による業務効率化、装備仕様の標準化により、業界最高水準の生産性が確立されていますので、低価格でのご提供が可能です。

なお請求記号は、(株)図書館流通センターの書誌データベース「TRC MARC」を基に自動付与しています。

③高品質

装備についても、IT システムを駆使して均質かつ高品質な装備作業を確立しています。また世界初の高速フィルムコーティング機も導入しています。なお、洋書や特殊な装備・データ作成が必要な場合は、「MaruzenCATS センター」にて承っています。



以上のように、『丸善新刊案内』、「Knowledge Worker」、新座ブックナリーでの装備、データ作成をご活用いただくことで、図書館で働く皆様の選書、発注、装備業務等を総合的にご支援しています。これらにより、皆様の業務効率化を実現すると共に、利用者サービスの向上も実現できるものと考えています。

4. 丸善の図書館様向けソリューション

丸善では、商品を納入させていただき、以下にご紹介するソリューションメニューもご提供しています。

図書館を運営される皆様が何かご不便を感じられることがある場合、ご相談いただければと存じます。

(1) 図書館のサービス品質評価システム「LibQUAL+® (ライプカル)」

図書館で働く皆様は、図書館サービス向上のために実施した施策がどれだけ効果があったのか、その評価・検証でお悩みになったことはありませんでしょうか。

当社がご紹介する「LibQUAL+®」は、Association of



Research Libraries (ARL) が提供する図書館に特化したサービス品質を査定する評価システムです。世界 20 カ国、大学やその他学術団体などの関連図書館 1,110 館が調査に参加し、累計 1,700 回以上の評価実績があります。現在では設問内容もブラッシュアップされ、リーズナブルに図書館に対する利用者のニーズを把握し、品質、サービスの改善を図ることができます。

① 調査方法

LibQUAL+®は、図書館利用者が約 11 分間の web アンケートに回答いただくことで実施します。アンケートは英語版・日本語版で提供され、利用者からのサービスの品質に関する意見を集約、相対的評価を抽出し、図書館サービスの改善に向けたアドバイスを提供します。

実施期間は約 2 週間で、回収後約 2 週間で ARL から結果報告書用の URL が送付されます。結果報告書にはバーチャートやレーダーチャートなども交え、グラフィカルに結果を確認いただけます。

② 設問内容

利用者に回答いただく「LibQUAL+®」の設問は、“サービスへの姿勢” “情報の管理” “場所としての図書館” と

いう 3 つの側面から図書館のサービス品質を評価します。22 の質問に対し、“最低限のレベル” “望ましいレベル” “実際のレベル” の 3 種類の観点から、1～9 点で採点する方式をとります。この各レベルの点数ギャップを見ることで、現状と理想の距離感などを掴むことができます。

また、他にもオリジナル項目として 5 つお選びいただくことも可能です。設問の最後には、コメント入力欄もあり、利用者からの生の声も確認することが可能です。

③ 「LibQUAL+®」の活用方法

図書館への期待、不満、改善点を把握することで今後の図書館運営を定量的 (スコア分析)、定性的 (コメント分析) に理解し、施設の改修、人材育成、情報環境の見直しなど多角的に活用することができます。実際の活用事例としては、資料・情報環境の整備、長中期的な事業計画の策定、他大学・他機関との比較検討、図書館の増改築、新設などがあります。

④ 丸善のサービス

当社では「LibQUAL+®」を実施する際の、基本コンサルティング、導入支援・登録補助、アンケート進捗管理、レポート翻訳、スコア・コメント分析評価レポート、評価報告分析調査、アンケート回収促進などのご支援をいたします。

(2) 適及入力サービス

図書館や資料室でお持ちの資料のうち、「特殊言語の資料に対応できず、データ適及ができない」、あるいは「寄贈本が多い時などでも、一時的なスタッフ増員が叶わず、自前での適及は難しい」等の理由により、まだ整理ができていない資料があると思います。丸善の適及入力サービスは、そのようなお客様のニーズにお応えし、出張作業を含め、以下のサービス内容で柔軟に対応しています。ご利用いただくことにより、古い蔵書の再整理、寄贈コレクション、移管図書、特殊言語等のデータ化を実現できます。

① 分類 (請求記号等) ・装備

日本十進分類法 (NDC)、デューイ十進分類法 (DDC)、四部分類、看護分類、日本著者記号表等に対応可能です。また、バーコード貼付、IC タグ貼付、背ラベル作成・貼付、ラベルキーパー貼付等の装備作業も承っています。

② 多様な資料への対応

和図書・古書、漢籍、貴重資料、教科書のほか、展示会カタログ、パンフレット等、多様な資料に対応しています。

③多言語への対応

対応可能な言語は、英語、ドイツ語、フランス語、スウェーデン語、オランダ語、ラテン語、ギリシャ語、ロシア語、中国語、韓国語、アラビア語、タイ語、エスペラント語等、様々な言語に対応しています。

(3) 蔵書点検サービス

蔵書点検は、図書館利用者へよりよいサービスを提供するために不可欠な作業です。しかしながら、蔵書点検の実施のための熟練スタッフの確保は難しく、とはいえ日常業務の合間に行うには時間的制約のほか、労務的負荷が大きくなります。また実施のために閉館が余儀なくされる場合には、利用者にご不便をかけることもあります。

当社では、そのような点でお困りの図書館様に蔵書点検の外注化をお奨めしています。

丸善の蔵書点検サービスの特長は以下の通りです。

- ①閉館から、翌日の開館までに作業を完了。
- ②熟練の人材と、ハンディーターミナルなどの機材はすべて当社からご提供。
- ③図書館様のシステムに応じたデータをご提出。

このように丸善の蔵書点検サービスは、事前準備から集計結果の提出まで一貫したサービスのご提供により、より一層、学術図書館の機能が向上されと考えます。

(4) 図書館業務の運営支援

当社では、大学図書館様のニーズに即した運営と、充実した利用者サービスを提供する運営業務のご支援も行なっています。

大学図書館様の品質維持・向上に寄与するため、図書館様と共に丸善のスタッフが各種ガイダンス・利用者教育のお手伝い、巡回スタッフによる業務検証、夜間運営への対応などの業務を受託しています。昨今は、学生ボランティアスタッフの積極的な参加を得る大学図書館もあるなど、そのご支援の幅は年を追って広がってきています。

(5) リーフレット「丸善ライブラリーニュース」

「丸善ライブラリーニュース」は、昭和 33（1958）年に創刊した図書館関係者の皆様にご愛顧いただいた図書

館に関する総合情報リーフレットで、18 年の休刊期間を経て 2008（平成 20）年に復刊いたしました。

この「丸善ライブラリーニュース」は、各大学図書館に従事される方はもちろん、工学、言語学などの研究者のほか、大学トップやマスコミなど、様々な視点をお持ちの方から論文をお寄せいただいています。最新号は当社のホームページからパート毎にダウンロード（無料）いただけますので、様々な学術図書館の動向の情報獲得にお役立てください。

http://www.maruzen.co.jp/business/edu/lib_news/index.html

5. 丸善電子図書館サービス

丸善では、2010 年 10 月より図書館様向け電子図書館サービスをスタートしています。このサービスは、学術図書館をはじめ、学生、研究者など幅広い図書館利用者へ「本に出会う場を数多く創出」、「読みたい本を多様なメディアで展開」するため、紙の書籍と電子コンテンツの双方をご提供する“ハイブリッド型図書館”をご提案しています。この電子図書館の特徴的な 4 つのサービス内容をご紹介します。

①電子書籍コンテンツの配信・販売

電子図書館では、出版社から利用許諾を得た「自然科学」、「人文社会」関連書籍や、「実用書」、「練習問題集」など、図書館での蔵書が難しい書籍の電子書籍コンテンツを中心に、約 5,000 タイトル配信・販売しています。当サービスでは、PDF、XML など様々なフォーマットのコンテンツに対応しているため、動画、音声、インタラクティブ性等を活かした電子書籍の閲覧、利用が可能です。

また、コンテンツの違法コピー防止などのセキュリティ対策については、ダウンロード、コピー、印刷制限など、高度なデジタル著作権管理（DRM : Digital Rights Management）を行っています。

②デジタルアーカイブの発信

デジタル化ニーズの高い、学術図書館が保有する貴重書、論文、独自資料などを、この電子図書館のプラットフォームで公開することが可能です。保有コンテンツのデジタル化のご支援として、当社が国立国会図書館や公共・大学図書館で培った、デジタルアーカイブ化、データベース化のソリューションをご提供しています。

③図書館からの情報発信

から、ホームページの多言語翻訳サービスを国立大学中心に広くご利用いただいています。

(2) ハイブリッド・パブリッシングサービス

当サービスは、多種多様な学術資源を、お客様の目的に合わせてアウトプットする多彩なサービスです。小ロット対応や、電子出版を視野にいたしたサービスなど、様々なシーンやニーズに対応したサービスをご提供することで、無駄のない効率的な学術情報の発信を実現しています。

プリント・オン・デマンド（POD）サービスでは、「必要なときに必要な部数を刷る」ことで、短納期・小ロットに対応できるだけでなく、利用者が好きなときに改訂したり増刷したりすることが可能です。

ISBN 付き出版サービスは、「自分の研究業績を研究論文集にして出版したい」「授業用の教科書・教材・参考書として執筆・出版し、自分の授業を履修している学生に使わせたい」といったご要望にお応えし、ISBN 付き書籍としてご提供するものです。ご相談によっては、丸善出版㈱の発売書として、全国の丸善書店をはじめとする大型書店での販売をサポートいたします。

また最近では、再びリポジトリ導入機運が高まるなか、論文編集支援サービスを立ち上げました。研究紀要作成において、執筆要項の作成から校正、進捗管理、さらには発行・情報公開までを一括してサポートすることで、質の高い論文を効率良く制作し、研究者や事務局の方々の課題解決の一役を担っています。

7. 大学図書館の環境づくりについて

最後にご紹介するのは、丸善が一級建築士事務所だからできる、大学様や大学図書館様の空間・環境づくりに関するコンサルティングのご提案についてです。

いま、日本の高等教育は、社会で求められる課題解決力を保有する人材輩出が求められています。その目的のため、大学教育の改革が迫られ、授業内容も“協調学習型”の授業が取り入れられるなど多様化しつつあります。そういった背景から、大学図書館のかたちも変化してきています。

当社がご提案するのは「ラーニングコモンズ」という考え方です。ラーニングコモンズは、学習支援が中心的な役割をもつため、図書館のほか、語学センター、学習支援センター、キャリアセンターなどとの連携による、学生向けの学習支援の総合的な場です。

当社は、“静”と“活”が共存し、移動可能で学習し

やすい家具、フレキシブルな空間、カフェ・ラウンジなどの交流施設、情報機器が活用できる空間などを統合した学習支援環境、つまり学生が相互に「情報獲得（好奇心をもつ）」「交流する（刺激しあう）」「表現する（アイデアを表に出す）」を循環させる“環境”をご提案しています。なお、そういった空間で協調学習を体験した学生は、卒業後の社会で必要とされるスキル「考える力」「まとめる力」を身につけて活躍し始めています。

当社は、まずコンサルティングさせていただき、その後、具体的構想をビジュアル化してご提案していますので、商品やサービスのご提供という側面のみならず、空間に関するご相談も、当社へお寄せください。



8. さいごに

天然資源に乏しい日本にとって、唯一の資源といえるのは人材です。その人材育成に欠かせないのが「知」であり、その「知」を得る場です。

昨今はインターネットにより、欲しい情報を得ることは容易になっています。しかしその断片的な情報が果たして「知」であるのか、真贋を見極めるための情報の体系化を行なえる人材は、残念ながら以前に比べて減少してきているように思われます。

当社は、得た断片的な情報を体系的にまとめる力を養う場の一つが図書館、とくに学術図書館だと考えます。当社はこれからも、学術図書館へ様々な商品やサービスをご提供することを通じて、日本の産業を支える人材輩出のため、微力ながらご支援してまいりたいと考えております。

独立行政法人森林総合研究所図書館

Forestry and Forest Products Research Institute library

1. はじめに

梅雨の合間の真夏のような日の午後、常磐線の牛久駅から路線バスで約10分ほどの研究学園都市の南端にある森林総合研究所（以下、森林総研という。）を訪問しました。

門をくぐり、守衛室に立ち寄ると、緑に囲まれた木陰で大変涼しく感じられ、さすが森林総研と思いつつ、入所手続きをして図書館に向かいました（写真1）。

図書館に着くと、入り口には節電の張り紙があり、図書館内は少し暗くなっていました（写真2）。児玉資料課長と渡部図書情報係長が待っていてくださり、挨拶もそこそこに森林総研の図書館は、今年の4月1日付けで公文書管理法における歴史資料等保有施設として内閣総理大臣に指定されたことの報告を受け、研究所内の説得や手続きに関するエピソードなどを伺う事ができました。

2. 図書館の概要

森林総研は、森林・林業・林産業に関する総合研究機関として研究を行っているほか、その研究成果の普及にも努めています。その中で、図書館は、森林・林業・林産業に関する世界的規模の研究情報の集積機関として、また、国内外にある数多くの関係機関との文献交換を始め、情報の広域化を図っており、我が国における森林・

林業・林産研究の情報提供機関として中核的な役割を果たしています。

図書館は、本所の職員5名、再任用1名、パート6人（各週2～3日勤務）で運営し、各支所は職員1名（併任を含む）およびパート1-2名で業務を行っています。

本所の蔵書数は約10万冊、和逐次刊行物4,430タイトル、洋逐次刊行物が1,809タイトルで研究機関の図書館としては規模が大きく、また「森林」から想像するより幅広い分野での収集が行われています。

所蔵資料には、稀覯書も多く、先日は山梨県北杜市の浅川伯教・巧兄弟資料館の企画展示用に資料の貸出を依頼され、期間中に計4冊を貸し出す予定とのことでした。なんでも国立国会図書館に貸し出しを依頼したところ、美術品運搬車で運ぶように求められて困ってしまい、森林総研に依頼をされたとか。森林総研も展示用の貸出依頼は初めてでとまどったものの、林業の研究者であった浅川巧氏の論文を展示したいという主旨に協力を決められたそうです。

オンラインジャーナルはElsevierのScience Directのコンプリート契約とSpringerのSpringerLinkの2パッケージを支所を含め契約しているが他機関同様に毎年契約額の増加には頭を痛めているとのことでした。また、本所と支所間の情報格差は、オンラインジャーナルや複写サービスで解消できるよう努めているとのことでした。



写真1 守衛室



写真2 図書館入り口

3. 図書館の利用

図書館の開館は、役職員は24時間利用が可能ですが、外部からの来館利用は平日9:00～16:30（昼休み12:00～13:00は除く）となっています。入館に際しては、身分

証明書等をカウンターに提示し、チェックを受ける必要があります。

また、1～3階の書庫内もカウンターに申し出て利用できるとのことでした。

館外貸し出しは、Library Card

(農林水産省が所管する機関間相互利用者)の所持者とNACSIS-ILLの加入機関のみに行っていました。

外部への複写サービスを行っており、来館者は1枚20円(セルフコピー)、FAX・郵送による申込みは60円、e-mailによる申込みは70円となっています。

図書館では、所蔵している国内外刊行の学会誌、雑誌等から約400誌を選び、そこから林業・林産関係論文・記事を選択し、その書誌情報を収録したデータベースのFOLIS(林業・林産関係国内文献データベース)を作成・提供しています。収録は1978年からで、現在収録件数は約182,000件とのことでした。ここ数年利用頻度が低迷していたため、昨年改修を行い、検索がしやすいよう簡易検索画面を追加し、またGoogleからも検索できるようにシステムをバージョンアップしたとのことでした。それが功を奏して現在は以前の利用水準にもどりつつあるとのことでした。

4. 館内見学

久しぶりに閲覧室を見学し、閲覧室の木製書棚が30年前と少しも変わらない状態であったのには驚きました。しかし、時代の流れか、雑誌の廃刊に伴っ



写真5 閲覧雑誌架



写真3 カウンター



写真4 閲覧雑誌架

て、閲覧棚が空いてきているとの説明がありました(写真3、4)。

閲覧室には、閲覧机が4台、個室が5部屋、1人用閲覧机が7台ありました(写真5)。

図書館内の書庫は、3つに分かれており、1Fが移動書架で、2F、3Fが積層のオープン書架となっています。しかし、書庫はすでに満杯になっており、現在は研究棟資料室(約10,000冊)、別棟書庫(約13,000冊)と埼玉試験地(約1,300冊)の3カ所に増設した書庫に利用頻度の低いものを移動し、保管しているとのことでした。別棟書庫には主にオンラインジャーナルで利用できるようになった雑誌のバックナンバーを配架しているとのことでした。

3月11日の震災では書庫(研究棟・別棟を含む)の図書資料類約4万冊が落下するという被害を受けたが、書架は、棚板の一部損傷を除き、被害はなかったとのことでした。特に被害の大きかった3F書庫では書架の間だけではなく通路まで本で埋まり足の踏み場もないほどになっていたそうです。図書館員だけでは、復旧がいつになるかもしれないような量だったため、研究所内にボランティアを募ったところ、約50人の方の協力を得ることができ、3月末には復旧できたとのことでした。

現在の書庫内は震災被害の跡形もなく、きれいに片付いていました。

お忙しい中、児玉課長、渡部係長には、丁寧な説明、案内と大変お世話になりました。

ありがとうございました。

(文責：平山立夫・高橋伸弘)

平成 23 年度第 2 回理事会議事録

日 時：平成 23 年 6 月 4 日(土) 11 時 00 分から 11 時 40 分

場 所：東京大学農学生命科学図書館会議室

出席者：長塚（会長）、惟村（副会長）、田沼（事務局長）、
木村理事、平山理事、上杉理事、永島理事、高
橋理事、森田理事、三井理事
事務局：上田

【議 題】

1. 平成 23 年度理事の役割分担について

（審 議）

1) 審議の結果、つぎのとおり役割分担を決定した。

○編集委員会（3 名）

平山理事（委員長）、木村理事、高橋理事

○セミナー委員会（3 名）

永島理事（委員長）、上杉理事、三井理事

○調査研究担当（2 名）

惟村理事（委員長）、森田理事

なお、各委員会の運営に当たっては、理事のほか会員からの参加を求めることとした。

2. 当面の取り組みについて

事務局より、日本農学図書館協議会見学会（6 月 25 日開催）および第 119 回農学図書館情報セミナー（7 月 9 日開催）についての説明があった。

3. その他

東京農業大学図書館の建替えに伴う、農図協事務局事務所の確保について検討を行った。その結果、現状では学内での確保は困難で、学外での事務所確保が必要であると認識し、地域、家賃価格等を勘案し事務所を確保することを了承した。

特定非営利活動法人日本農学図書館協議会 平成 23 年度通常総会議事録

1 日 時 平成 23 年 6 月 4 日(土) 午前 10 時から午前 11 時まで

2 場 所 東京大学農学生命科学図書館会議室
東京都文京区弥生 1-1-1

3 正会員総数 111 名

4 出席者数 58 名（うち書面表決者 46 名）

5 審議事項

(1) 第 1 号議案 議長の選任

(2) 第 2 号議案 平成 22 年度事業報告

(3) 第 3 号議案 平成 22 年度決算報告及び監査報告

(4) 第 4 号議案 平成 23 年度事業計画

(5) 第 5 号議案 平成 23 年度予算

(6) 第 6 号議案 監事の選任について

(7) 第 7 号議案 理事選任の報告

6 議事の経過の概要及び議決の結果

正会員総数 111 名のうち、58 名出席（うち書面表決者 46 名）と定款第 28 条に規定する総会の定足数を満たしており、総会は成立したことを表明した。

(1) 第 1 号議案 議長の選任

司会より、瀬川紀代美氏を指名し、全員異議なくこれを承認した。

(2) 第 2 号議案 平成 22 年度事業報告

議長より平成 22 年度事業報告案を配布し、詳細に審議したところ、全員異議なくこれを承認した。

(3) 第 3 号議案 平成 22 年度決算報告及び監査報告

議長より平成 22 年度決算報告案及び監査報告を配布し、詳細に審議したところ、全員異議なくこれを承認した。

(4) 第 4 号議案 平成 23 年度事業計画

議長より平成 23 年度事業計画案を配布し、詳細に審議したところ、全員異議なくこれを承認した。

(5) 第 5 号議案 平成 23 年度予算

議長より平成 23 年度予算案を配布し、詳細に審議したところ、全員異議なくこれを承認した。

(6) 第 6 号議案 監事の選任について

議長より次期監事の選任案を配布し、詳細に審議したところ、全員異議なくこれを承認した。

(7) 第 7 号議案 理事選任の報告

議長より理事選任の報告書を配布し、全員異議なくこれを承認した。

7 議事録署名人の選任に関する事項

議長より本日の議事をまとめるに当たり、議事録署名人2名を選任することを諮り、永島英明氏及び上杉かおる氏を選任することを全員異議なく承認した。

特定非営利活動法人日本農学図書館協議会 平成23年度（第8回）通常総会

日 時：平成23年6月4日（土） 10：00より

場 所：東京大学農学生命科学図書館会議室

【議事】

- I 平成22年度事業報告
- II 平成22年度決算報告及び監査報告
- III 平成23年度事業計画
- IV 平成23年度予算
- V 監事の選任について
- VI 理事選任の報告

I 平成22年度事業報告

1. 総 括

平成22年度普及事業は、会誌及びセミナー・見学会とも年間計画に基づき概ね実施することができた。一方、調査研究事業及び国際交流事業については、十分な取り組みができなかった。委託事業は、前年に引き続き（株）日科情報から受注した。また、新規事業として、農林水産省の農学文献情報データベース分析・入力・蓄積業務を受けることができた。この他、農図協の基盤を強化するための諸活動に取り組み一定の成果を得た。

2. 普及事業

1) 会誌の刊行

第1回編集委員会（2010年4月8日（木））を開催し、2010年度の年間編集計画を決定した。本年度も、年間計画に基づき158号（6月1日）から161号（3月1日）を定期刊行した。特集では「機関リポジトリ（会誌158号）」を取り上げ、7機関の取り組みを編集した。新企画では、東京農業大学図書館が開催するセミナー「農楽入門」から「畑中勝守：地図情報とGoogle Mapの活用法（会誌159号）」及び「本間裕人：きのこの不思議（会誌160号）」を取り上げた。

会誌広告は、158号より（株）ブリザベーション・テクノロジー・ジャパンから掲載を受注した。

第2回編集委員会（2011年2月10日（木））を開催し、2011年度の年間編集計画等を検討した。

2) セミナー・見学会の開催

2009年12月12日（土）に、第2回セミナー委員会を開催し、2010年度セミナー・見学会の年間計画を決定した。6月に「テーマ：図書館に求められる人材像～大学図書館員のコンピテンシー」のセミナー開催を予定し、国立大学図書館協会事務局（東京大学付属図書館総務課企画渉外係）を窓口講師依頼の折衝を行ったが、日程の都合がつかず中止せざるを得なかった。10月28日（木）に開催した第118回セミナー「テーマ：新たな知的コミュニケーションの場としての図書館－ラーニング・コモンズの導入と成果について」（会場：お茶の水女子大付属図書館、講師：江川和子氏）は、テーマ内容に対し関心が高かったこと、また非会員への参加呼びかけも行った結果、57名（うち会員15名）（登録者60名、）の参加があり大きな盛り上がりがあった。

図書館員向け見学会は、2010年6月23日（水）、24日（木）の両日、（株）ブリザベーション・テクノロジー・ジャパン（さいたま市）で「酸性紙脱酸処理技術」の見学会を開催した。図書館所蔵の図書の酸性化が進行していること、非会員に参加を呼びかけたこともあり、23日に14名、24日に13名の計27名の参加があった。

本年度は、「農図協のあり方検討会」の検討結果を踏まえ、農図協主催・東京農業大学学術情報課程協力による東京農業大学職員、学生を対象とした「食料・農業・農村を知るセミナー」を世田谷キャンパス、厚木キャンパスにおいて3回開催した（会誌161号）。

3) ホームページの充実・強化

セミナー開催等のコンテンツを掲載した。

3. 調査研究事業

1) 首都圏農学系大学図書館連絡会議の推進

特段の取り組みを行わなかった。

2) 「コンソーシアム」形成のための調査研究

6月に実施した見学会の成果を踏まえ、「酸性紙資料保全研究会」の設置について、2010年9月7日（火）に検討を行い、設立趣意書を作成した。

4. 国際交流事業

特段の取り組みを行わなかった。

5. 受託事業

1) 抄録・索引作成および日化辞データ整備事業（日科情報（株））

昨年度と同様程度の抄録・索引作成件数を受注し、完納した。

2) 大規模辞書登録データ作成（JST）

競争入札の結果、大規模辞書登録データ作成（農林分野）を受注し、完納した。

3) 農学文献情報データベース分析・入力・蓄積業務（筑波事務所）

平成22年9月22日付けで、全省庁統一資格の一般競争（指名競争）参加資格（平成22・23・24）を取得した。また、平成22年8月16日付けで、「農学文献情報データベース分析・入力・蓄積業務」契約に関する「筑波事務所発注契約に関するアンケート調査」への回答が求められ対応した。

「農学文献情報データベース分析・入力・蓄積業務」入札は平成23年2月25日（金）に筑波事務所で行われ、農図協も参加した結果、事業実施の資格を得た。

4) 研修プログラム（東京農業大学）

東京農業大学図書館に勤務する丸善スタッフ及び職員向けに「図書館カウンター業務に携わる職員の資質向上研修プログラム」実施を受託し、講師陣を大学、農水省、民間に依頼し、2月15日から3月8日の間に7テーマを実施した。

6. その他

1) 農図協のあり方検討会の開催

平成22年7月20日（火）に「第1回農図協のあり方検討会」を、平成22年10月5日（火）に「第2回農図協のあり方検討会」を東京農大図書館会議室において開催した。審議の結果、東京農大学生及び教職員向けの「食料・農業・農村を知るセミナー」の開催、農大図書館に派遣されている職員向け研修及び会誌広告・B会員の拡大等の提言があった。

2) インターン（実習生）の受入

平成22年8月20日（金）に、NPOサポートセンターの呼びかけに応じ、インターン（実習生）受入について打ち合わせを行った。また、法政大学大学院で行われた「オリエンテーション&実習生との交流会」に参加した。その結果、10月7日・8日の両日に実習体験者1名を受け入れた。本年11月から来年2月にかけて行われるインターンには、当協議会を希望する者はいなかった。

3) 全国図書館大会に参加

平成22年9月16日（木）～17日（金）に、奈良市で開催された全国図書館大会に田沼事務局長が参加した。今回、専門図書館協議会が呼びかけ、8つの専門図書館団体が賛同し参加した。分科会の概要は、専門図書館協議会誌に掲載された。

4) 世田谷区NPO提案型協働事業への対応

平成22年度世田谷区NPO提案型協働事業説明会（主催：特定非営利活動法人まちこらば、世田谷区市民活動推進課）が、平成22年9月16日に「三茶しゃれなあど」で開催され、参加した。3役会議で事業提案を行うことを決め、「図書館を活用して区民の野菜づくりを支援する事業」を企画したが、平成22年夏から農大図書館の移転作業がはじまるため、提案書の提出は取りやめた。

5) 会員の動き（3月末現在）

	平成22年度 会員数	入 会	退 会	平成23年度 当初会員数
A 会 員	62	0	3	59
B 会 員	7	2	1	8
個人会員	46	1	3	44
計	115	3	7	111

【活動日誌】

- 22年4月2日（金）第7回農図協3役会議
- 22年4月8日（木）2010年度第1回編集委員会
- 22年4月9日（金）会計監査
- 22年4月21日（水）第1回理事会
- 22年5月8日（土）抄録・索引作成協力者との懇談会
- 22年5月20日（木）農大図書館打ち合わせ
- 22年5月22日（土）
○平成22年度通常総会
○第2回理事会
- 22年6月11日（金）（株）日科情報の新役員へ挨拶
- 22年6月23日（水）～24日（木）
酸性紙脱酸処理技術見学会
22年7月6日（火）第8回農図協3役会議
- 22年7月20日（火）農図協のあり方検討会
- 22年7月22日（木）東京農大図書館との定例打ち合わせ
- 22年8月11日（水）お茶の水女子大図書館との打ち合わせ
- 22年8月20日（金）NPOサポートセンターとの打ち合わせ

- | | |
|---|--|
| <p>14. 22年9月7日(火)「酸性紙図書保全研究会」設置の
打ち合わせ</p> <p>15. 22年9月14日(火) オリエンテーション&実習生と
の交流会</p> <p>16. 22年9月16日(木) 平成22年度世田谷区NPO提案型
協働事業説明会</p> <p>17. 22年9月16日(木) 東京農大図書館との定例打ち合
わせ</p> <p>18. 22年9月16日(木)～17日(金)
全国図書館大会</p> <p>19. 22年9月21日(火) 第9回農図協3役会議</p> <p>20. 22年10月5日(火) 第2回農図協のあり方検討会開
催</p> <p>21. 22年10月28日(木) 第118回農学図書館情報セミ
ナー</p> <p>22. 22年10月30日(土) 第3回理事会開催</p> <p>23. 22年11月26日(金) 第1回食料・農業・農村を知るセ
ミナー</p> <p>24. 22年12月7日(火) 農大図書館との打ち合わせ</p> <p>25. 22年12月13日(月) 第2回食料・農業・農村を知るセ
ミナー</p> | <p>26. 23年1月28日(金) 第10回農図協3役会議</p> <p>27. 23年2月10日(木)「農学文献情報データベース分
析・入力・蓄積業務」入札説明会</p> <p>28. 23年2月10日(木) 第2回編集委員会</p> <p>29. 22年2月14日(月) 第1回セミナー委員会</p> <p>30. 23年2月16日(水) 第3回食料・農業・農村を知るセ
ミナー</p> <p>31. 23年2月15日(火)、17日(木)、18日(金)、
3月1日(火)、3日(木)、4日(金)、8日(火)
図書館カウンター業務に携わる
員の資質向上研修プログラム</p> <p>32. 23年2月17日(木) 第11回農図協3役会議</p> <p>33. 23年2月25日(金)「農学文献情報データベース分
析・入力・蓄積業務」入札</p> <p>34. 23年3月24日(木) 農大図書館との打ち合わせ</p> <p>34. 23年3月25日(金) 大規模辞書登録データ作成(農
林分野)データ納入</p> <p>35. 23年3月26日(土) 第4回理事会</p> |
|---|--|

Ⅱ 平成 22 年度会計報告

1 収 支 計 算 書

(平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日まで)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
【経常収入の部】			
会 費 収 入	1010000	1038750	-28750
個 人 会 員	200000	180000	20000
団 体 会 員 A	600000	558750	41250
団 体 会 員 B	210000	300000	-90000
事 業 収 入	2400910	3189190	-788280
抄 録 索 引 作 成 受 託 費	2300910	2389190	-88,280
調 査 委 託 事 業	100000	800000	-700000
広 告 料 収 入	190000	190000	0
雑 収 入	50000	18705	31295
雑 収 入	50000	17500	32500
受 取 利 息	0	1205	-1205
経常収入合計	3650910	4436645	-785735
【経常支出の部】			
事 業 費	2916900	2901568	15332
会 誌 刊 行 費	889060	828015	61045
セミナー等活動費	127880	83007	44873
研 究 調 査 費	10000	3733	6267
抄 録 索 引 作 成 費	1859960	1790936	69024
調 査 委 託 事 業 費	30000	195877	-165877
管 理 費	2875740	2821330	54410
理 事 会 等 運 営 費	111360	77388	33972
事 務 局 運 営 費	2764380	2743942	20438
経常支出合計	5792640	5722898	69742
経常収支差額	-2141730	-1286253	-855477
【その他資金収入の部】			
繰 入 金 収 入	4968075	0	4968075
その他資金収入合計	4968075	0	4968075
【その他資金支出の部】			
予 備 費	100000	-----	100000
その他資金支出合計	100000	0	100000
当期収支差額	2726345	-1286253	4012598
前期繰越収支差額	0	4968075	-4968075
次期繰越収支差額	2726345	3681822	-955477

2 貸借対照表

(平成23年3月31日現在)

(単位:円)

科 目	金 額		
【資産の部】			
流動資産			
現金預金	3714538		
流動資産合計		3714538	
資産合計			3714538
【負債の部】			
流動負債			
預り金	32716		
流動負債合計		32716	
負債合計			32716
【正味財産の部】			
正味財産			3681822
(うち当期正味財産減少額)			1286253
負債及び正味財産合計			3714538

3 財産目録

(平成23年3月31日現在)

(単位:円)

科 目	金 額		
【資産の部】			
流動資産			
現金預金	3714538		
現金 現金手許有高	28400		
当座預金	175000		
ゆうちょ銀行	175000		
普通預金	1511138		
三井住友銀行 経堂支店 普 5217583	1511138		
定期預金	2000000		
三井住友銀行 経堂支店 普 5217583	2000000		
流動資産合計		3714538	
資産合計			3714538
【負債の部】			
流動負債			
預り金	32716		
流動負債合計		32716	
負債合計			32716
正味財産			3681822

監査承認証

特定非営利活動法人 日本農学図書館協議会の平成22年度の会計に関する証拠書類を
監査の結果、適正かつ正確であったと認めます。

平成23年4月15日

石田 一明



宝来 貴子



Ⅲ 平成23年度事業計画

平成 22 年度の事業結果を踏まえ、23 年度はつぎの事業を実施します。

1. 普及事業

1) 会誌の刊行

年間編集計画に基づき、年 4 回刊行します。

2) セミナー・見学会の開催

年間計画に基づき、情報技術等に関する農学図書館情報セミナーを年間 2 回、大学図書館の見学会、新たに学術図書館交流会を開催します。

3) ホームページの充実・強化

ホームページ・コンテンツ等の充実に努めます。また、役員・会員の協力を得て運営態勢の整備を図ります。

2. 調査研究事業

農学系図書館の連携を深めるための課題について検討を行います。

3. 国際交流事業

海外の農学系関連団体との交流を検討します。

4. 受託事業

1) 抄録・索引作成および日科辞データ整備事業（継続）

日科情報(株)から受託し、抄録・索引作成等の事業に取り組みます。

2) 農学文献情報データベース分析・入力・蓄積事業（新規）

農林水産省が構築する JASI、AGRIS データベースの事業に取り組みます。

3) その他

自治体等の事業提案に対し、積極的に企画提案を行うよう努めます。

5. その他

1) 農図協の運営について

農図協の運営健全化を図る観点からの検討を行います。

2) 会員について

会員の拡大に努めます。

IV 平成 23 年度収支予算

(平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで)

科 目	予算額	前年度 予算額	増 減	備 考
【経常収入の部】				
会費収入	1,050,000	1,010,000	40,000	
個人会員	220,000	200,000	0	5,000 × 44 = 220,000
団体会員 A	590,000	600,000	-10,000	10,000 × 59 = 590,000
団体会員 B	240,000	210,000	0	30,000 × 8 = 240,000
事業収入	14,698,000	2,400,910	12,297,090	
抄録原稿作成受託費	1,638,000	2,300,910	-662,910	
農学文献情報 DB 事業	12,960,000	0	12,960,000	
調査委託事業	100,000	100,000	0	
広告料収入	190,000	190,000	0	
雑収入	20,000	50,000	-30,000	
経常収支合計	15,958,000	3650910	12,307,090	
【経常支出の部】				
事業費	13,990,294	2,916,900	11,073,394	
会誌刊行費	870,560	889,060	-18,500	
セミナー等活動費	172,780	127,880	44,900	
研究・調査費	20,000	10,000	10,000	
抄録原稿作成費	1,575,650	1,859,960	-284,310	
農学文献 DB 事業費	11,321,304	0	11,321,304	
調査委託費	30,000	30,000	0	
管理費	934,490	2,875,740	-1,941,250	
理事会等運営費	118,000	111,360	6,640	
事務局運営費	816,490	2,764,380	-1,947,890	
経常支出合計	14,924,784	5,792,640	9,132,144	
経常収支差額	1,033,216	-2,141,730	3,174,946	
【その他資金収入の部】				
繰入金収入	3,681,822	4,968,075	-1,286,253	
その他資金収入合計	3,681,822	4,968,075	-1,286,253	
【その他資金支出の部】				
予備費	100,000	100,000	0	
その他資金支出合計	100,000	100,000	0	
当期収支差額	4,615,038	2,726,345	1,888,693	
前期繰越収支差額	0	0	0	
次期繰越収支差額	4,615,038	2,726,345	1,888,693	

(主な取組み)

1. 平成 23 年度通常総会

日 時：平成 23 年 6 月 4 日(土) 10:00～

場 所：東京大学農学生命科学図書館会議室

議 事：Ⅰ 平成 22 年度事業報告

Ⅱ 平成 22 年度決算報告及び監査報告

Ⅲ 平成 23 年度事業計画

Ⅳ 平成 23 年度予算

Ⅴ 監事の選任について

Ⅵ 理事選任の報告

2. 平成 23 年度第 2 回理事会

日 時：平成 23 年 6 月 4 日(土) 11:30～

場 所：東京大学農学生命科学図書館会議室

議 題：1. 平成 23 年度理事の役割分担について

2. 当面の取り組みについて

3. その他

3. 多摩美術大学八王子図書館見学会

日 時：平成 23 年 6 月 25 日(土) 10:00～

場 所：多摩美術大学八王子図書館 等

参加者：20 名

4. 第 119 回農学図書館情報セミナー

日 時：平成 23 年 7 月 9 日(土) 14:00～

場 所：東京農大図書館視聴覚ホール

テーマ：科学技術情報発信・流通システム(J-STAGE)
の活用法

講 師：(独)科学技術振興機構 青山幸太氏

参加者：25 名

5. 新事務所への移転

日 時：平成 23 年 7 月 28 日(木)

場 所：〒114-0014 東京都北区田端 3-13-2

谷中田ビル 202

多摩美術大学八王子図書館の見学会

農図協セミナー委員会は、2011 年 6 月 25 日(土)に表記見学会を行いました。見学会への参加者は 20 名。当日は、多摩美術大学の図書館事務部長・美術館事務室長の神原秀治さんに図書館、学内をご案内いただきました。神原部長の図書館建設の考え方から運営に至るまで全てを把握されている説明には感服いたしました。有難うございました。ここに参加者から寄せられた見学会の感想を掲載いたします。(農図協事務局)

普段は気づくことが少ないが、私たちの日常はデザインで囲まれている。

多摩美大図書館は、専攻の特性上、図書館資料のコンテンツだけではなく、表紙デザインも、書架も、建物・家具・展示物も、全てが教材とみなされているところが通常の大学図書館と大きく異なるところである。建物建築も、設計者が大学教員であるだけに、デザインを理解し尽くし、経年変化も計算して理想の図書館を作る、という哲学で作られているのはうらやましい。一方で、いかに実用と兼ね合わせるか、図書館職員が知恵を絞った様子も伺えた。

OPAC は他の図書館と似たものであったが、分類は大半が 700 番台であることや、利用の手引きに「画集の見分け方」を形態(PHYS)の見方で解説されているところが特徴的である。説明によると、レファレンスは「誰の」「どの主題の」資料を問い合わせられることが多く、利用者の目的意識が明確であるとのことだった。

美術は最後は自分の感性がなくてはならないからこそ、学生相互の仲間意識(作品製作者の立場であるから他者の作品も大切に)や、キャンパス全体(文字通り全体)で感性を伸ばそうとする、愛情を持った視点が感じられた見学会であった。

(東京大学文学部図書チーム 梅谷 恵子)

多摩美術大学図書館というと、洗練された建物の美しさが目を引いてしまいが、耐震面・環境面・教育面を考慮して建てられたものであるという事をこの見学会から知りました。

雨水の再利用システムやセンサーにより調光できる照明、床の通風口から冷暖房する機能など驚かされる事は多くありましたが、本以外のものからも知識を深める場として図書館が機能していることに感銘を受けました。

図書館前はアートギャラリーとして学生に開放され、作品発表や打ち合わせ、ポスター展示スペースとなっていました。中でも、経年劣化の様子を学生に見せる為にあえて技法を無視したコンクリートの床には教育者のこだわりが感じられました。

図書の扱いに関しても、雑誌は本そのもののデザイン性を保つ為に製本をせず、新着雑誌以外は閉架書庫で保管する。美術書や写真集が多いため利用し易いように独自の配架方式を採用するなど、管理面にも多くの工夫があるようでした。

今回の見学会から、私は図書館の基本精神を改めて学ぶ事が出来ました。

貴重な図書を保存するだけではなく、その図書を有効利用してもらえるよう利用者の目線に立って図書館運営にあたることの大切さ、図書館は知識の発信源であるという認識を持って業務に当たる姿勢など、日々の業務に追われて忘れがちになっている事を教えて頂きました。

最後になりますが、図書館見学という貴重な機会を与えて頂いたこと、お礼申し上げます。

(独立行政法人農業環境技術研究所広情報室 田代 恵子)

これだ！話に聞いていた伊東豊雄設計の建物、多摩美術大学八王子図書館。彼の作品は雑誌などで見知っていたものの、生で見るのは初めてだ。今回、農園協から見学会のご案内をいただき、千載一遇のチャンスと申し込んだ。

自然の立地を生かしたままの斜面に、その図書館はスタイリッシュに建っていた。この外観だけでも、学生を図書館へと向かわせる動機付けは十分だ。しかも、建物は免震構造で、先の東日本大震災では大きな罹災を免れたとのことだ。

一步足を踏み込めば、期待を裏切らず、書架や椅子・机などの備品も全て“おしゃれだ”。学生は建物や備品類を直に目にし、触れ、さらにはその経年変化も肌で感じることができる。その学習効果もねらっているらしい。図書館というと、整然とし管理の行き届いた空間、というのが大方の印象だ。しかし、この図書館全体があくまでも生きた教材である。美術大学ならではの発想だ。管理面、運用面で多少問題もあるだろう。しかしそれを超え、この空気感に包まれて自身の専攻科目の学習・研究ができる学生を、羨ましくも思う。それが実感だ。次回の見学をさらに期待したい。

(TAJ 記)

JAALD
日本農学図書館協議会見学会



多摩美術大学八王子図書館

2011年6月25日(土)10:00~11:00

募集人員 先着20名 (但し会員を優先します)

※見学後、希望者はキャンパスツアー(1時間)、附属美術館もご覧いただけます。

2007年に完成した多摩美術大学八王子図書館。その構造はアーチのかたちで最大幅16m、最高5.7mもの高さ、国内でも類例のない造りです。コンセプトは寄り道する図書館、自然の樹木のようにと、キャンパス周辺の自然環境を積極的に取り込み、つい寄りたくなる図書館です。閉架式書庫がガラス越しに見え、開放的に作られた館内には、所蔵庫や閲覧室のほか、構内の他の施設との連携を強く意識して、メディアバー、ラボラトリー、カフェ、AVブースなどが設けられ、設備も充実した図書館です。是非、見学に参加してみませんか。

集合場所・時間 多摩美術大学八王子図書館入口 9時45分

■アクセス■
JR横浜線・京王相模原線橋本駅北口から神奈川中央交通バス「多摩美術大学行」で約8分。
JR八王子駅南口から京王バスで約20分。自家用車、バイクでのお越しはご遠慮ください。

所在地
〒192-0394 東京都八王子市鎌水2-1723 <http://library.tamabi.ac.jp/hachioji/access/>

■参加申込み■
NPO法人日本農学図書館協議会事務局
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1 東京農業大学図書館4F
Tel,Fax:03-5477-2776 E-mail:jaald@nifty.com
メールまたはFaxでお申し込みください(申込み締め切り:6月10日(土))

図 見学会チラシ

移転のお知らせ

特定非営利活動法人 日本農学図書館協議会は、東京農業大学図書館の建替えに伴い、事務局（事務局）を下記に移転いたしました。東京農業大学図書館には、長年に亘り物心両面からご理解とご支援いただきました。有難うございました。今後は、新事務局（事務局）において農学系図書館事業の振興のための活動を行います。会員の皆様、関係者、関係団体の皆様におかれましては、引き続きご理解とご支援をお願い申し上げます。

記

住 所：〒114-0014 東京都北区田端 3-13-2 谷中田美術第2ビル 2F

電話 & Fax：03-5834-2840

E-Mail：jaald@nifty.com

（編集委員）

委員長	平山 立夫	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
委員	木村 博	特定非営利活動法人日本医学図書館協会
	高橋 伸弘	独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所
事務局	田沼 繁	特定非営利活動法人日本農学図書館協議会

会員頒布

日本農学図書館協議会誌 163号

2011年（平成23年）9月1日発行

発行人 長塚 隆

編集・発行 特定非営利活動法人日本農学図書館協議会

住 所 〒114-0014 東京都北区田端 3-13-2
谷中田美術第2ビル 2F

TEL&FAX 03（5834）2840 e-mail：jaald@nifty.com

URL：http://jaald.ac.affrc.go.jp

印刷所 （有）工房 GAO 東京都文京区本郷 3-17-8 吉沢ビル 3F

ISSN 1342-1905